

第3部 年齢からみた事故

ここでは、年齢層別での比較や乳幼児、就学区分、成人、高齢者などの年齢区分ごとに事故の傾向や事故の要因等を取り上げています。

令和元年中の救急搬送人員を年齢層別にみると、70代が25,000人、80代が35,000人を超え、多く救急搬送されています。

また、若い年代をみると9歳以下が11,919人と多く救急搬送されています（図3-1）。

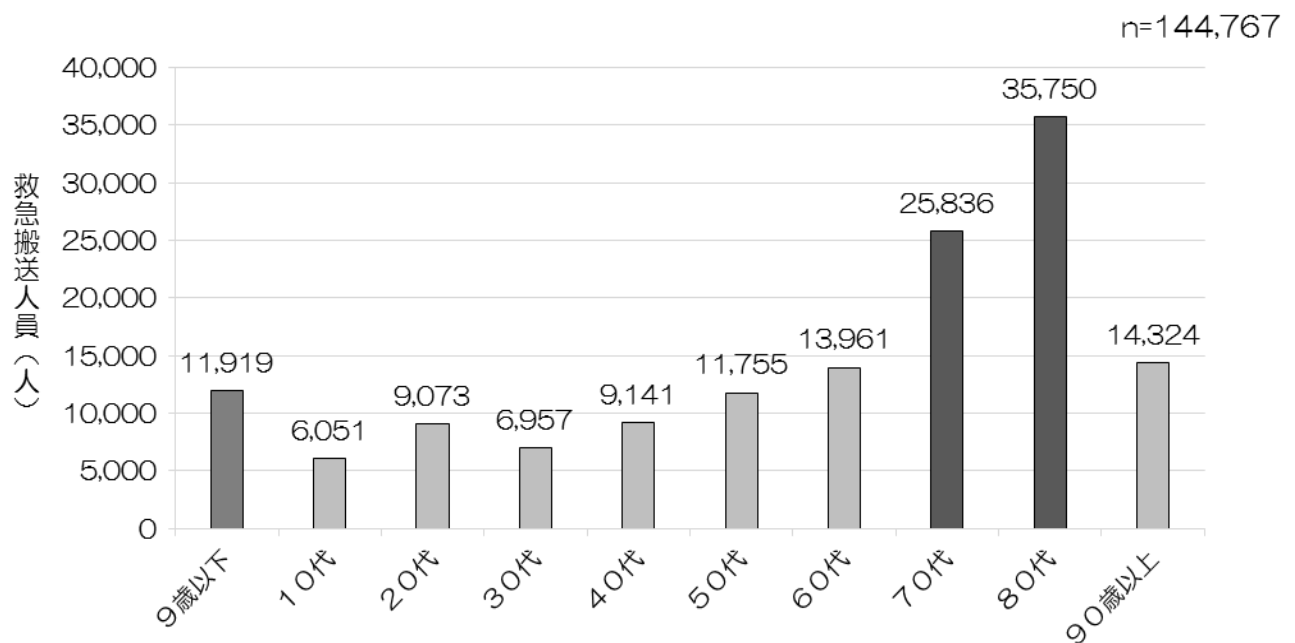


図3-1 年齢層別救急搬送人員

1. 年齢層別での比較

(1) 年別搬送人員での比較

過去5年間の救急搬送人員を比較すると、9歳以下から60代はほぼ横ばいで推移している一方で70歳以上では増加傾向にあります（図3-2から図3-11）。

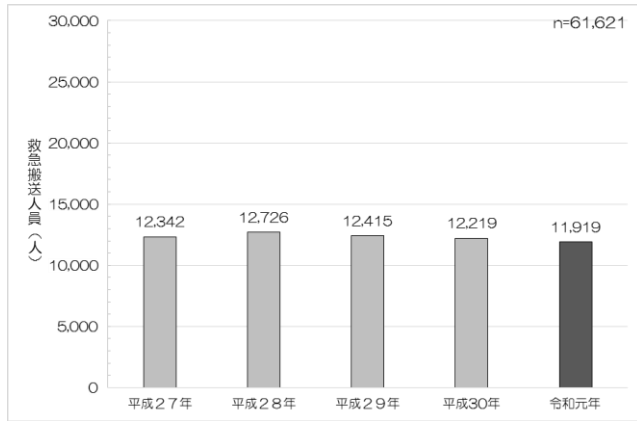


図3-2 9歳以下

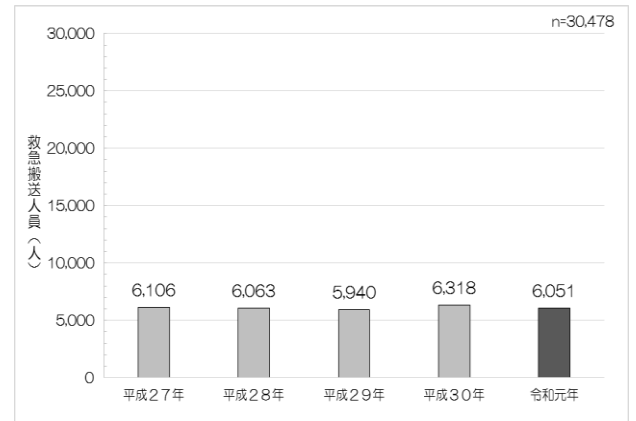


図3-3 10代

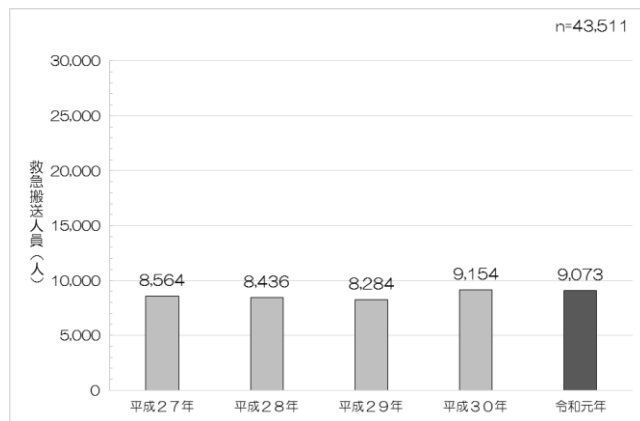


図3-4 20代

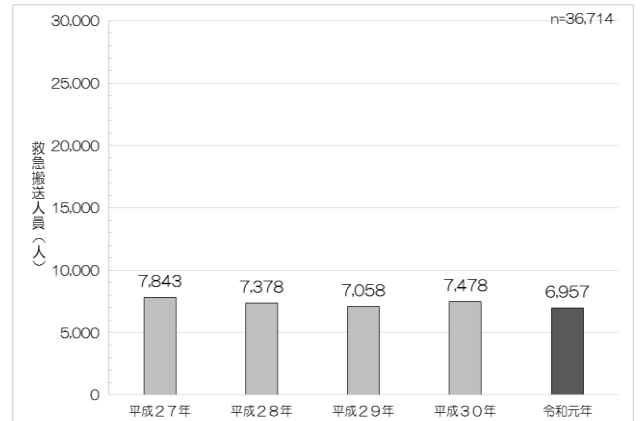


図3-5 30代

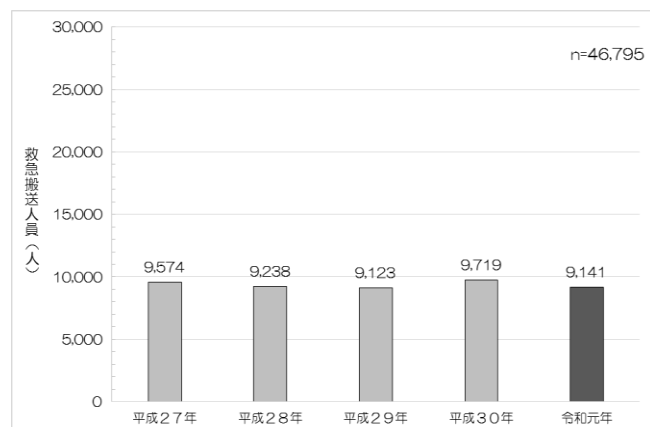


図3-6 40代

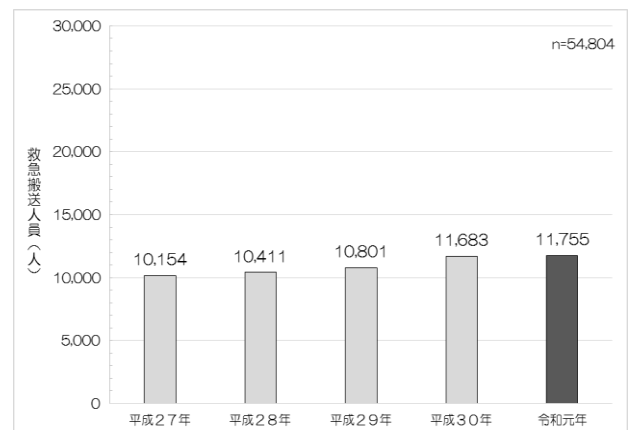


図3-7 50代

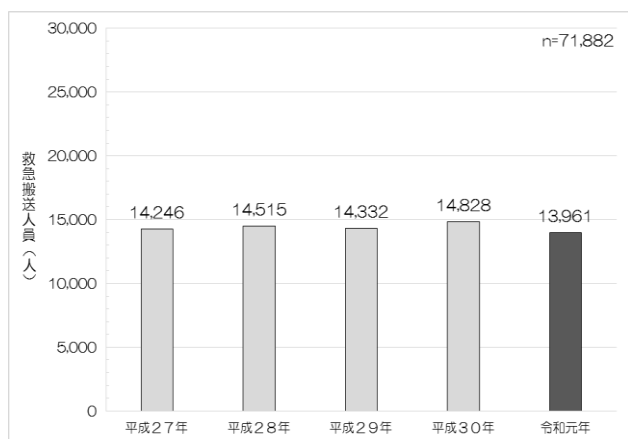


図3-8 60代

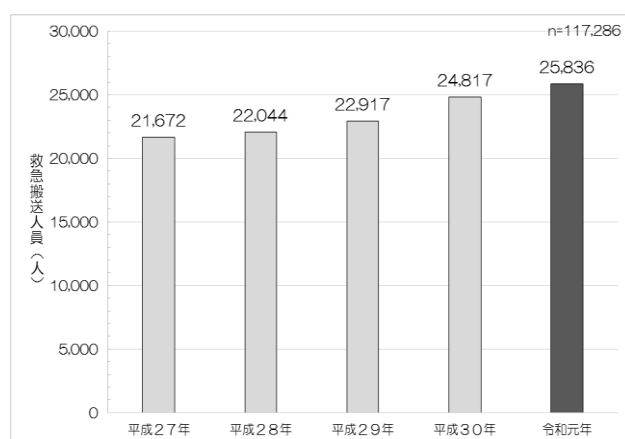


図3-9 70代

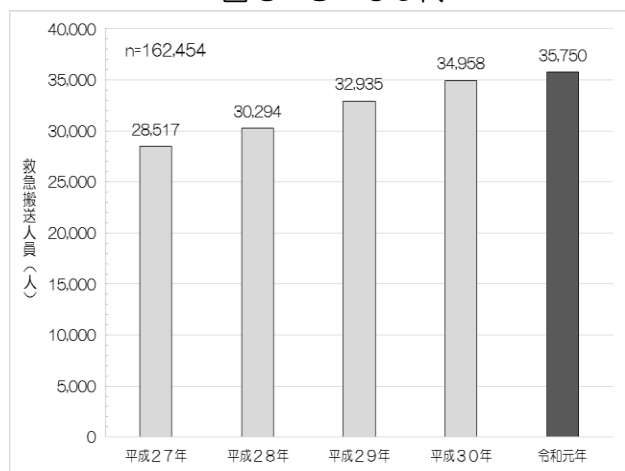


図3-10 80代

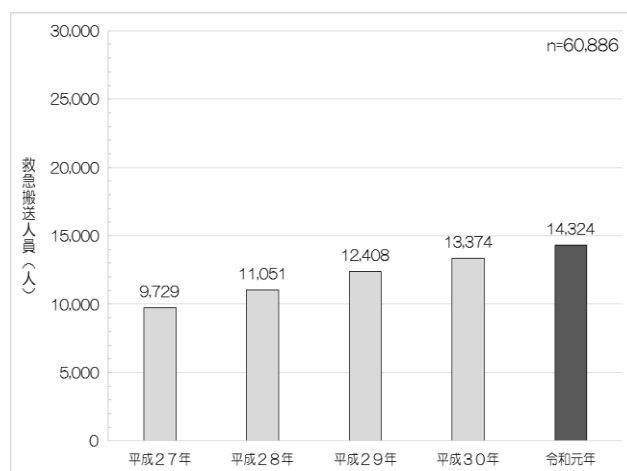


図3-11 90歳以上

(2) 事故種別（その他、不明を除く）ごとの比較

事故種別（その他、不明を除く）ごとに比較すると、「ころぶ」事故の割合は、50代から全体の6割以上を占めています。「落ちる」事故では9歳以下で約3割を占めています。「切る・刺さる」事故では20代と30代で1割以上を占めています。「ものがつまる等」の事故については、9歳以下では1割以上を占めています（図3-12から図3-17）。

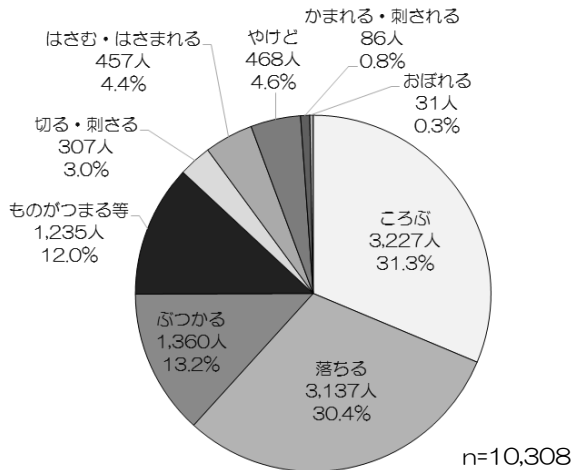


図3-12 9歳以下

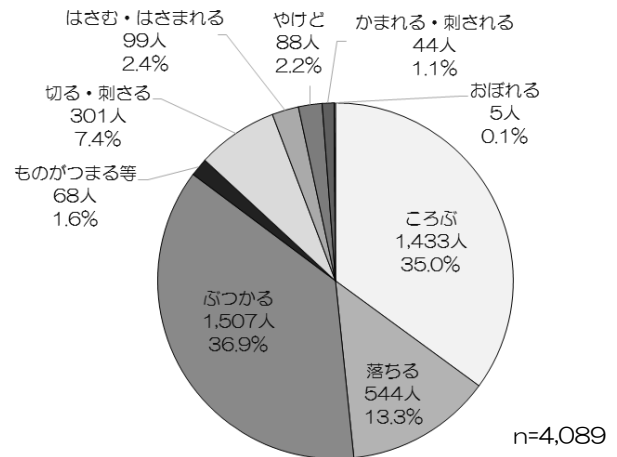


図3-13 10代

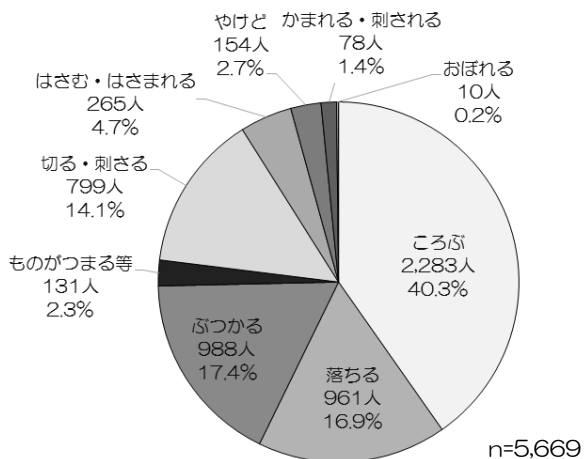


図3-14 20代

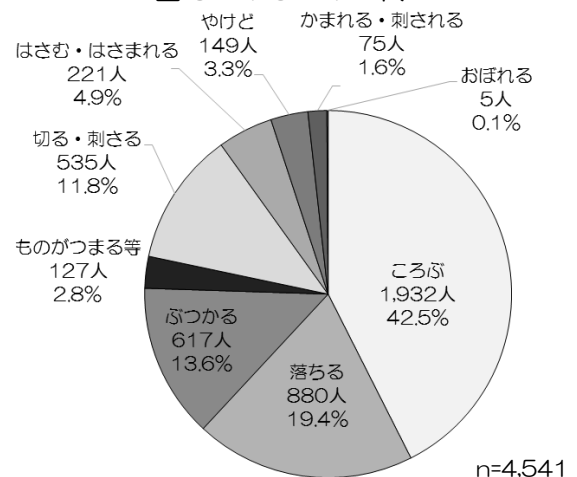


図3-15 30代

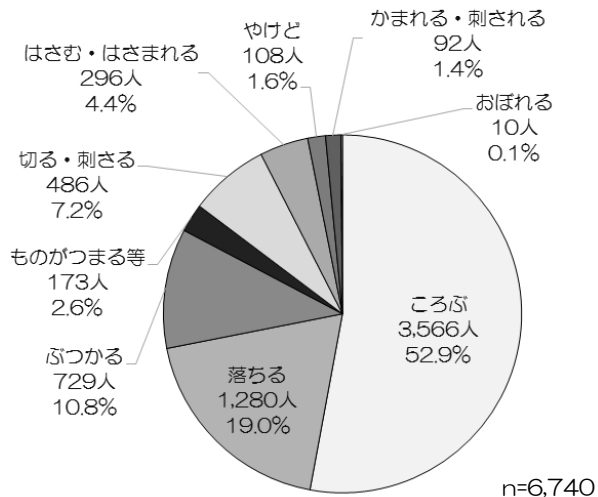


図3-16 40代

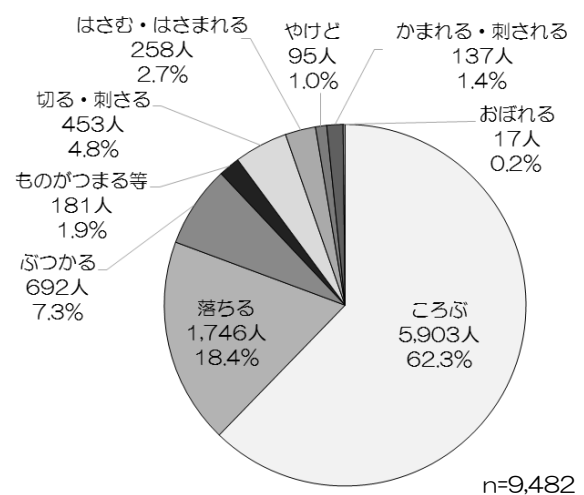


図3-17 50代

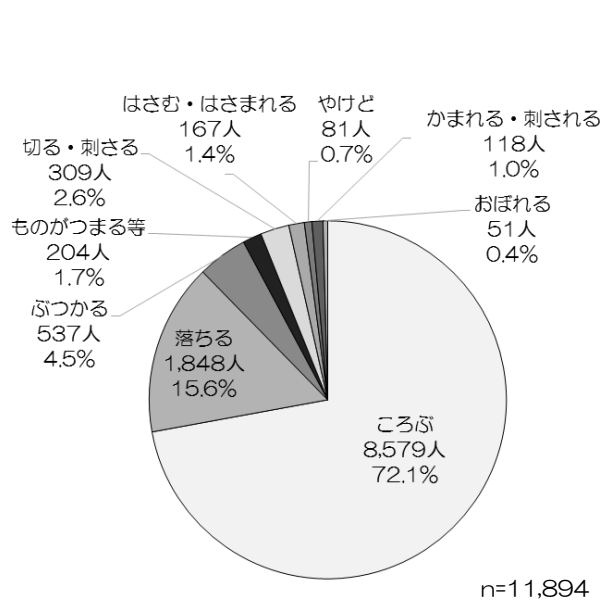


図3-18 60代

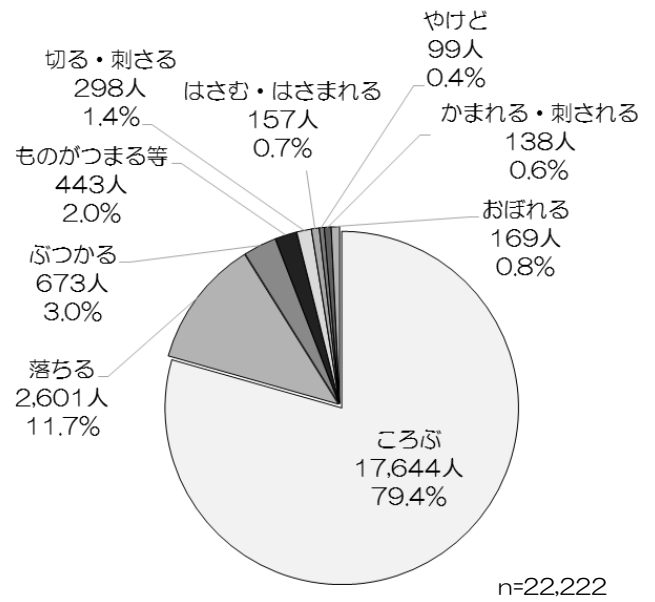


図3-19 70代

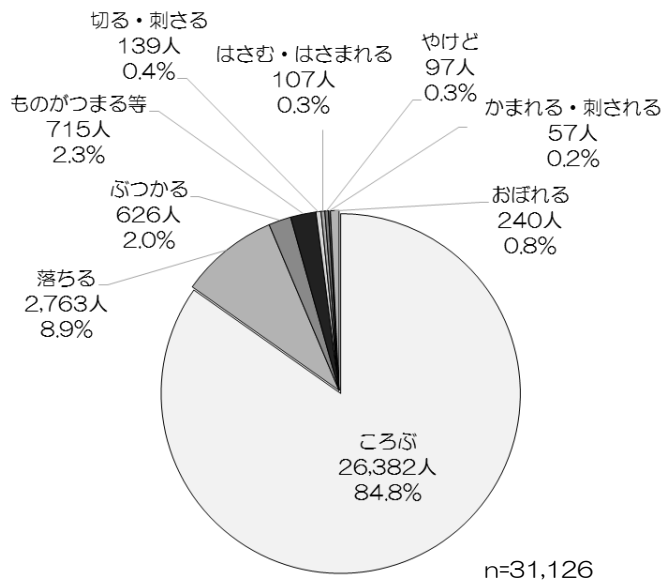


図3-20 80代

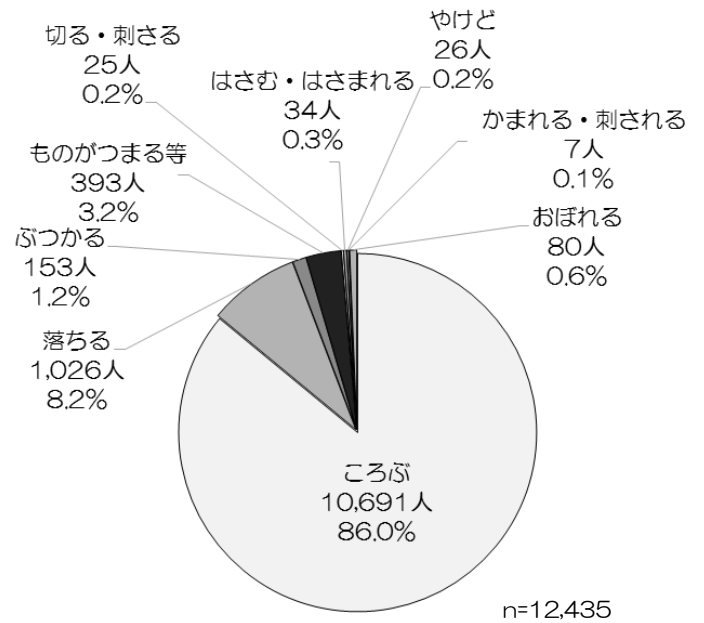


図3-21 90歳以上

(3) 時間帯別の比較

時間帯別に比較すると、9歳以下では17時から20時までの時間帯で1,000人以上が救急搬送されています。10代では日中が多くなっており、20代から50代にかけては夜間に増加しています。60代では夜間に加えて、日中でも多く救急搬送されています。70代以上では夜間の救急搬送が減少し、日中に多く救急搬送されています（図3-22から図3-31）。

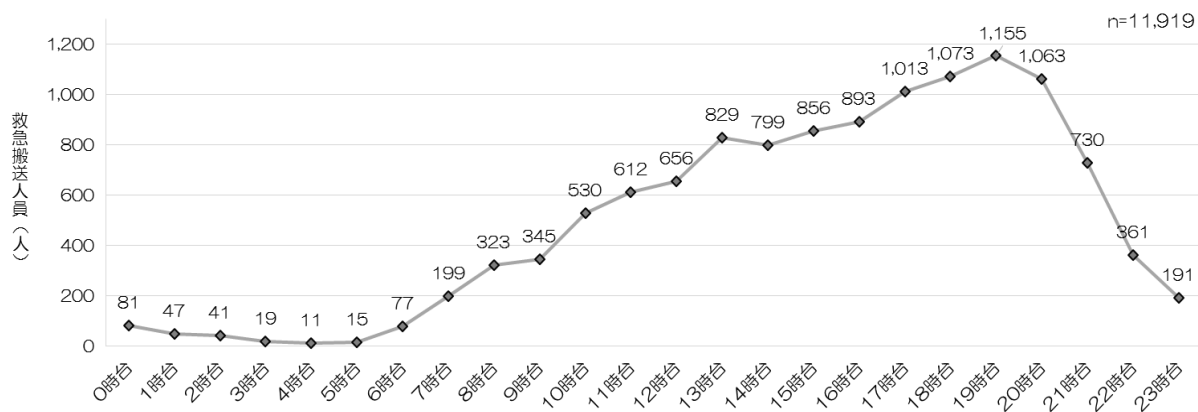


図3-22 9歳以下

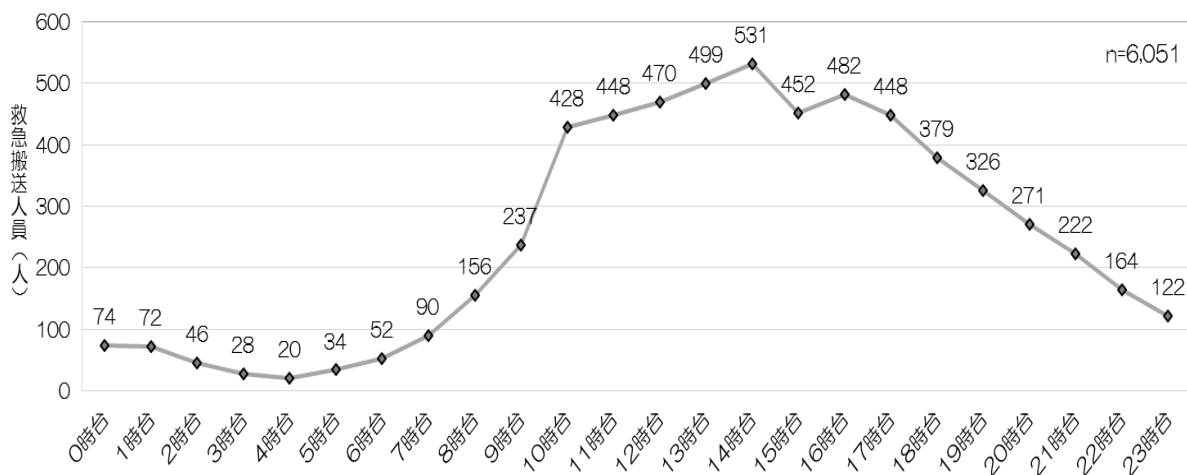


図3-23 10代

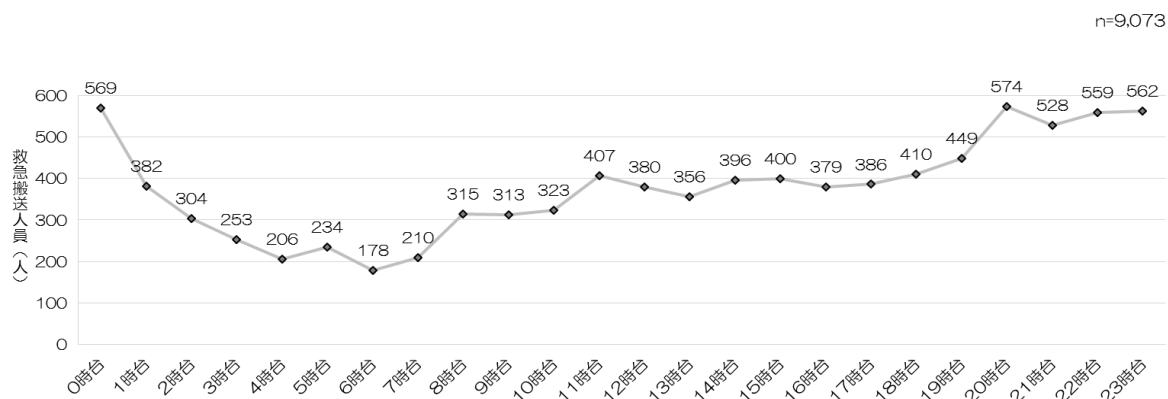


図3-24 20代

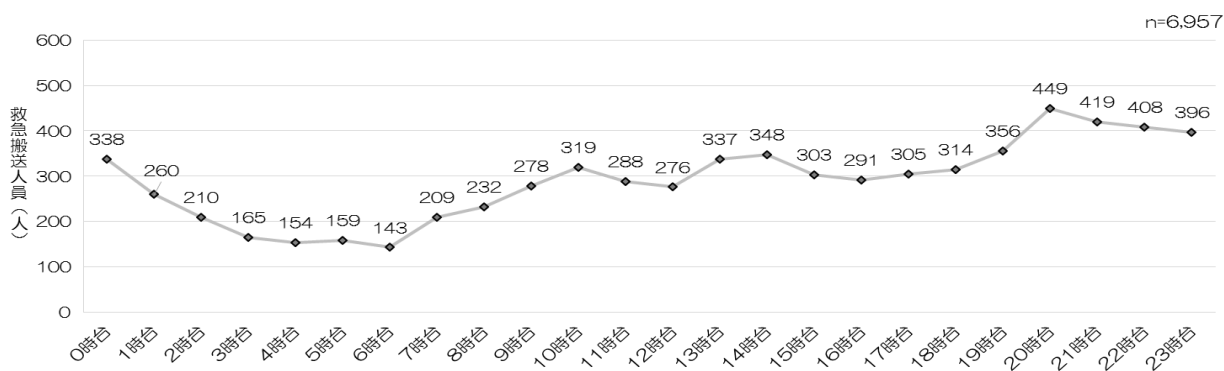


図3-25 30代

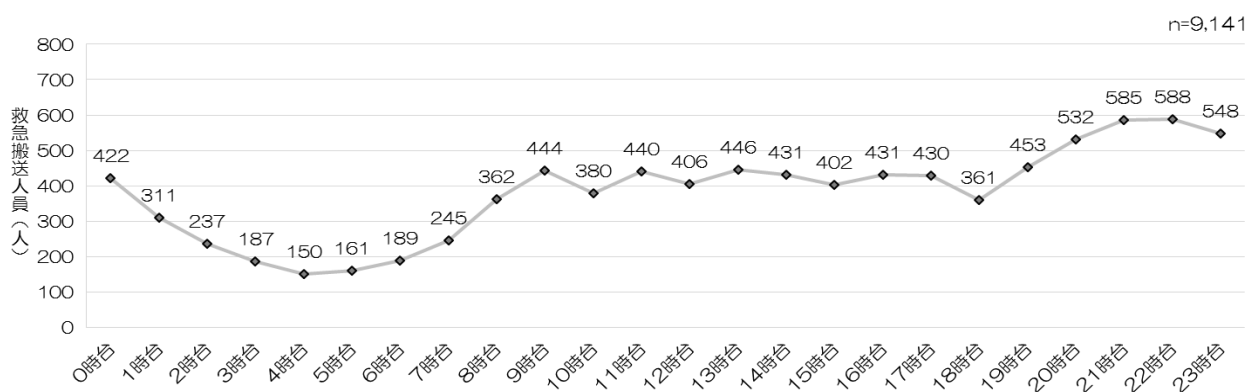


図3-26 40代

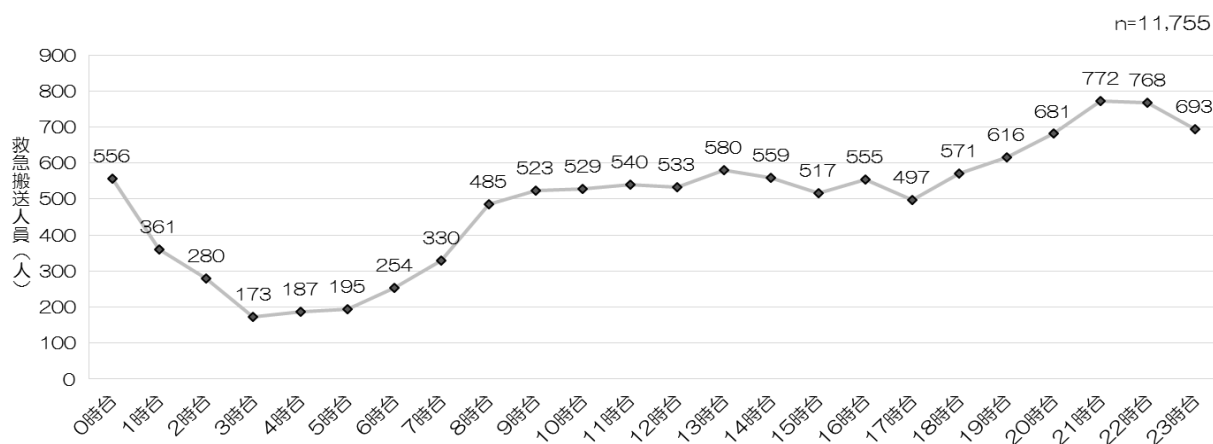


図3-27 50代

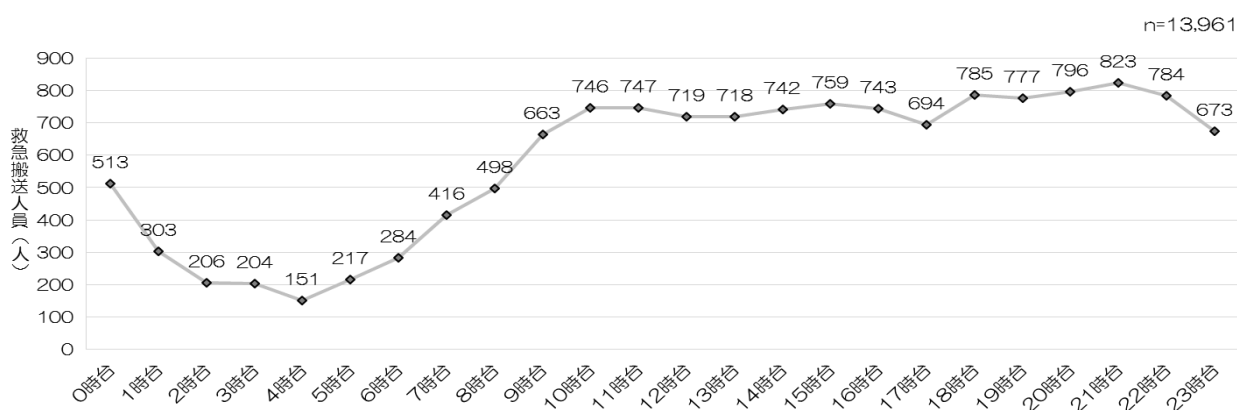


図3-28 60代

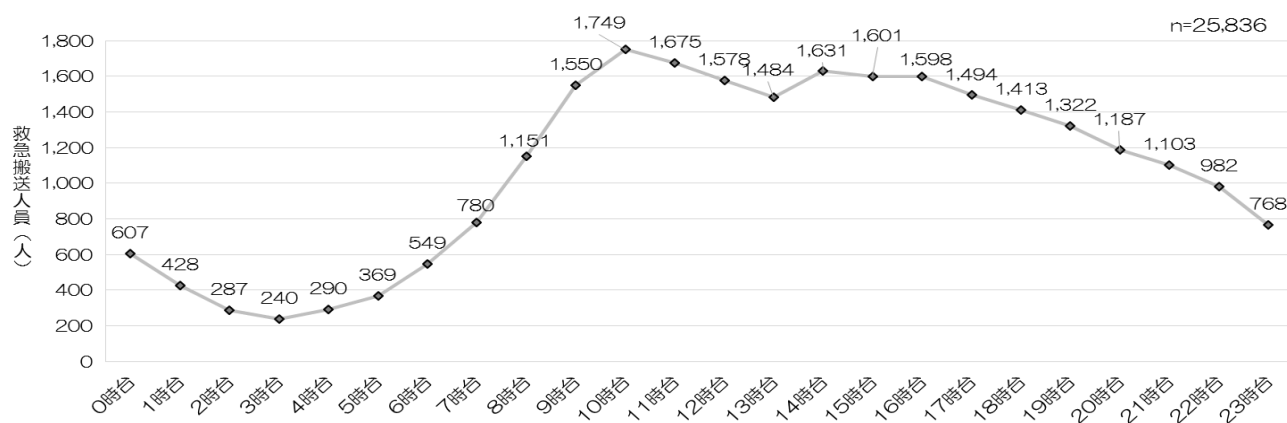


図3-29 70代

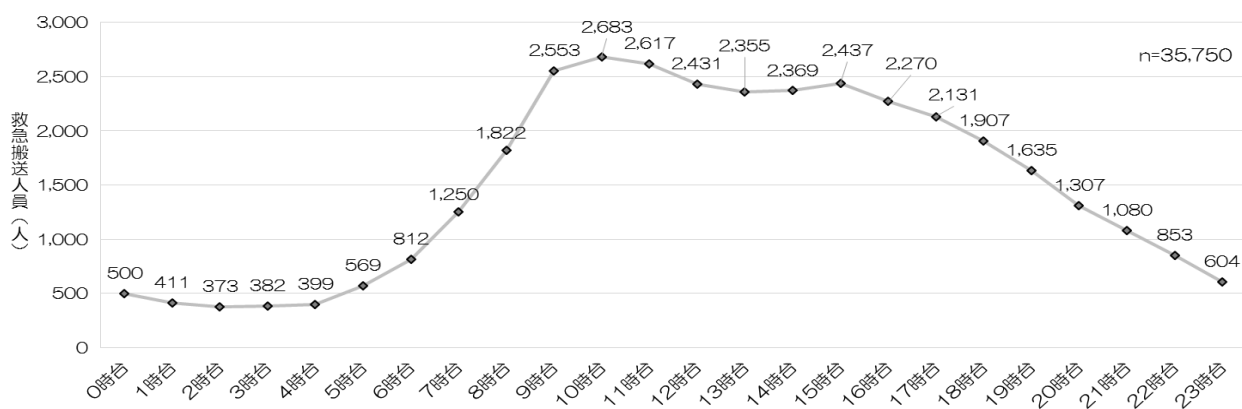


図3-30 80代

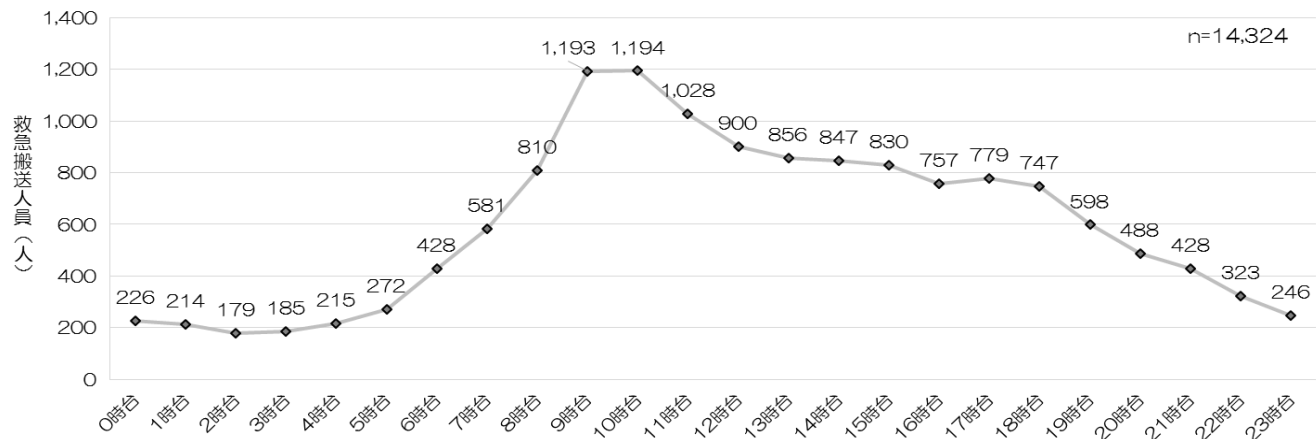


図3-31 90歳以上

2. 年齢区分からみた事故

(1) 0歳～5歳（乳幼児）の事故

① 0歳～5歳

ア 年別搬送人員

0歳から5歳の乳幼児の事故で、平成27年から令和元年までの5年間に48,226人が救急搬送されています。令和元年は、昨年より減少し9,275人が救急搬送されています（図3-32）。

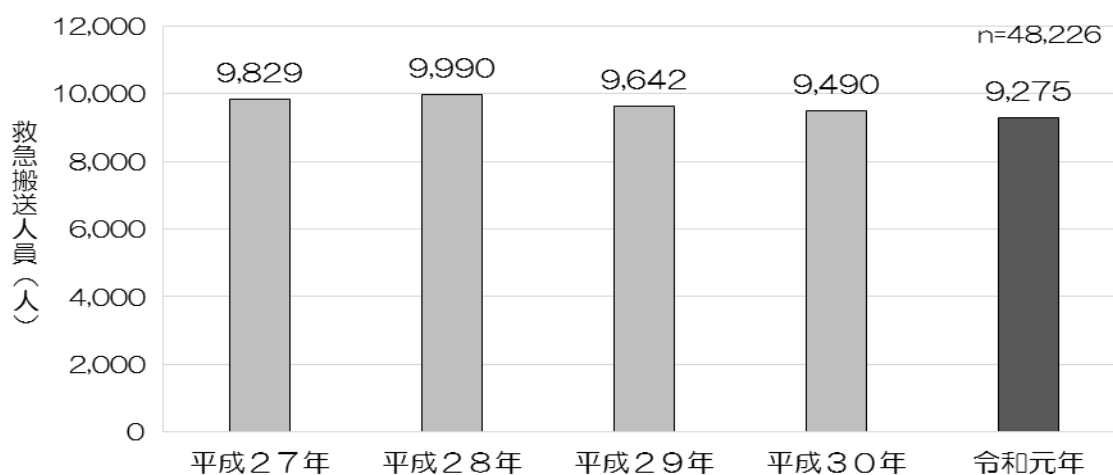


図3-32 年別の救急搬送人員

イ 年齢別搬送人員

令和元年中の乳幼児の事故を年齢別にみると、1歳児の救急搬送人員が2,218人と最も多く、次いで2歳児が1,874人となっています（図3-33）。

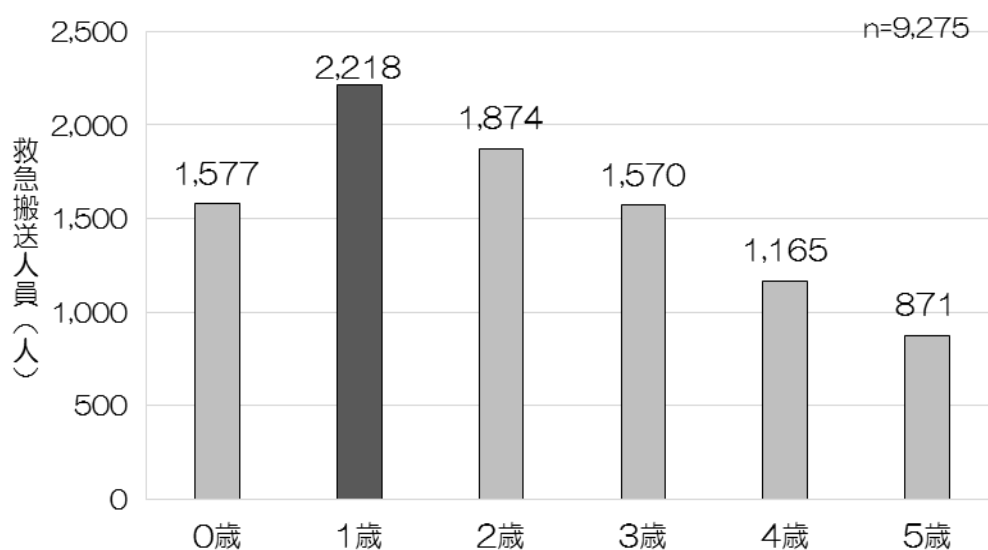


図3-33 年齢別救急搬送人員

ウ 時間帯別搬送人員

時間帯別では、18時台から20時台に多く救急搬送されています（図 3-34）。

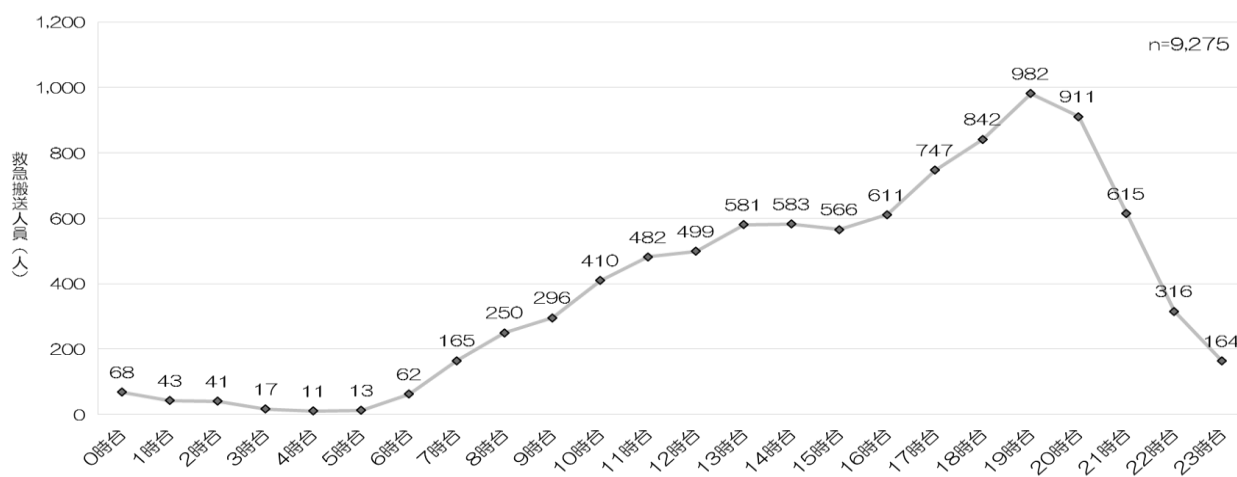


図 3-34 時間帯別救急搬送人員

エ 発生場所別搬送人員

乳幼児の事故の発生場所の約7割は、住宅等居住場所となっています（図 3-35）。

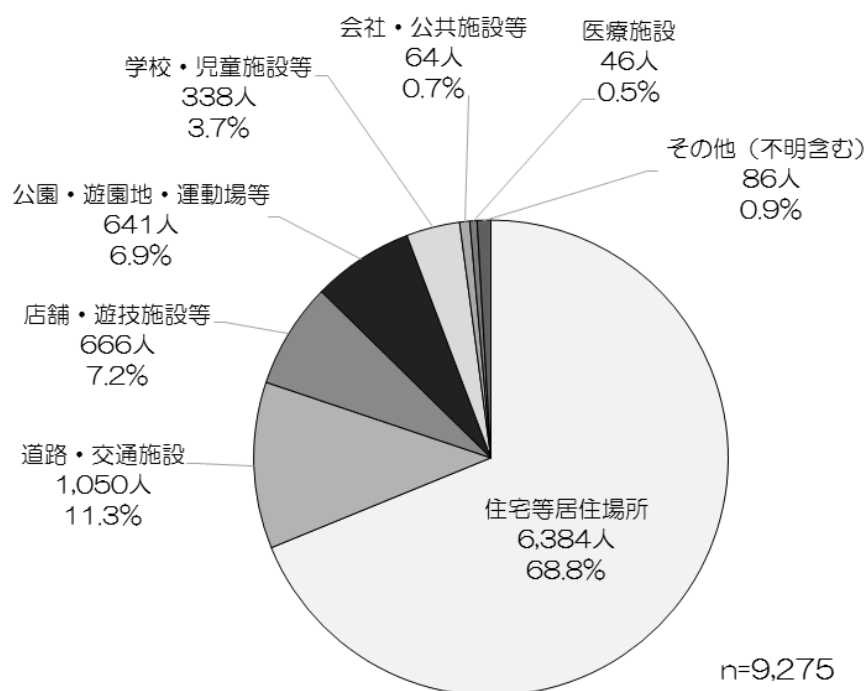
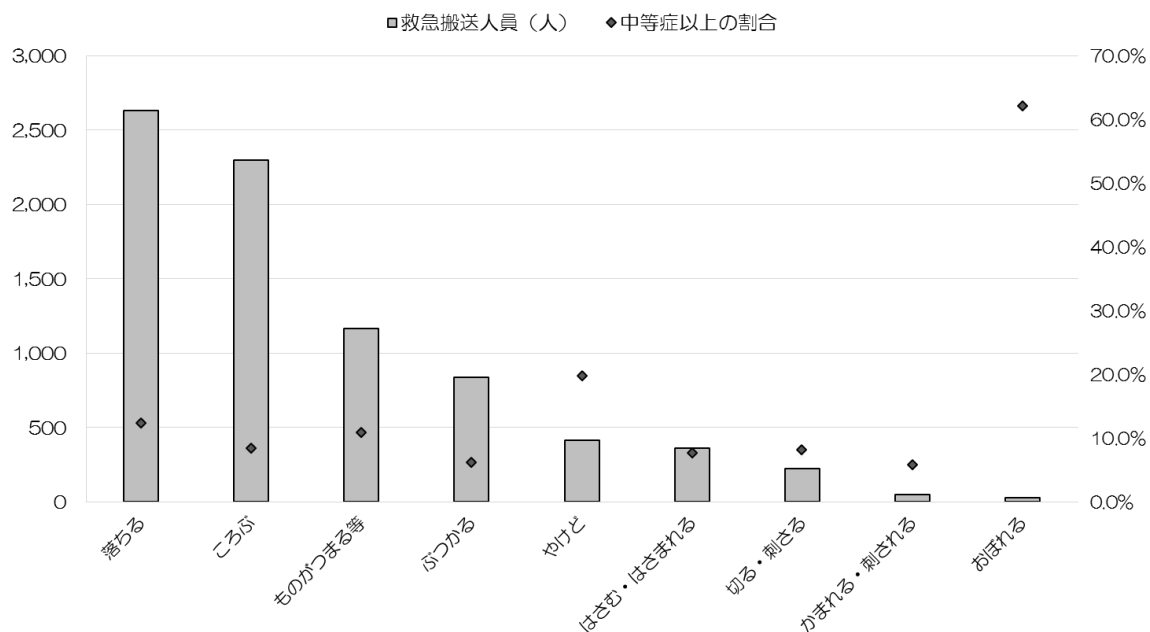


図 3-35 発生場所別救急搬送人員

オ 事故種別ごとの搬送人員

乳幼児の事故でもっとも多いのは「落ちる」事故で、2,633人が救急搬送されています。初診時程度で中等症以上の割合が最も高いのは「おぼれる」事故で、6割以上と突出して高くなっています。また、「やけど」でも約2割が中等症以上と診断されています（図3-36）。



事故種別	落ちる	ころぶ	ものがつまる等	ぶつかる	やけど	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	2,633人	2,300人	1,163人	839人	414人	362人	223人	51人	29人
中等症以上の割合	12.3%	8.5%	10.8%	6.2%	19.8%	7.7%	8.1%	5.9%	62.1%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-36 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

カ 年齢ごとにみる特徴的な事故の変化

乳幼児は日々成長し、昨日できなかったことが、今日できるようになっているかもしれません。子供の発達を知り、その時期に起こりやすい事故を知り対策をとることで、重大な事故を防ぐことが出来ます。

0歳

ベッド（134人）や人（121人）が抱えている状態から「落ちる」事故が多く発生しています。また、**包み・袋（95人）**や**たばこ（56人）**、**玩具（44人）**を「誤って飲み込む」事故も多く発生しており、なんでも口に入れてしまう特徴がみとれます。また、**ポット・魔法瓶（29人）**で「やけど」をする事故も発生しています。

1歳

一人歩きを始める頃で、**階段（142人）**や**椅子（102人）**などの家具から「落ちる」事故や、**その他の家具（48人）**や**机・テーブル（43人）**に起因する「ころぶ」事故、「ぶつかる」事故が多く発生しています。
その他にも、**たばこ（39人）**や**薬剤等（27人）**を「誤って飲み込む」事故や、**手動ドア（35人）**に「はさむ・はさまれる」事故、**お茶・コーヒー類（34人）**などによる「やけど」の事故など、様々な事故が発生しています。

2歳

階段（117人）や**椅子（62人）**などに起因する「落ちる」事故が多く発生しており、**自転車の補助イス（60人）**でも発生しています。「ころぶ」事故では、**机・テーブル（44人）**などの家具類で多く発生しています。また、「ぶつかる」事故、**手動ドア（32人）**に「はさむ・はさまれる」事故も多く発生しています。**熱湯（9人）**や**カップ麺（8人）**に起因する「やけど」の事故も発生しており、注意が必要です。

3歳

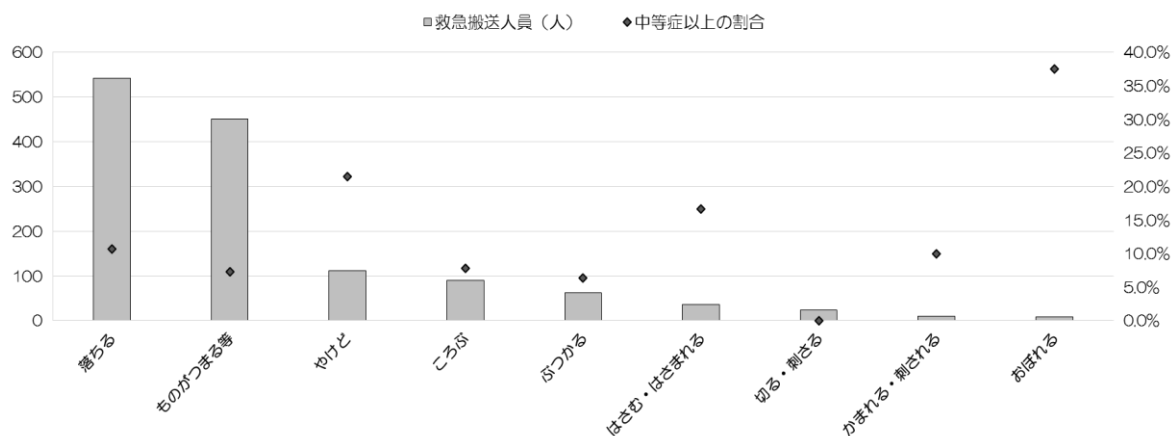
5歳

階段（84人）や**机・テーブル（76人）**で「ころぶ」事故が多く発生しています。また、2歳児と同じく、**自転車の補助イス（76人）**から「落ちる」事故も多く発生しています。**その他の玩具（45人）**などを「誤って飲み込む」事故や、**ナイフ（16人）**による「切る・刺さる」事故が発生しており、注意が必要です。

② 0歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

0歳児に最も多いのは「落ちる」事故で542人が救急搬送されています。「おぼれる」事故は、中等症以上となる割合が約4割と最も高くなっています（図3-37）。



事故種別	落ちる	ものがつまる等	やけど	ころぶ	ぶつかる	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	542人	451人	112人	90人	63人	36人	24人	10人	8人
中等症以上の割合	10.7%	7.3%	21.4%	7.8%	6.3%	16.7%	0.0%	10.0%	37.5%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図 3-37 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

0歳児に最も多い事故は、ベッドから落ちる事故で134人が救急搬送されています。「ものがつまる」等の事故ではお菓子の袋やペットボトルのラベルなどの「包み・袋」の誤飲による事故が多く発生しています（表1）。

表 1 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	落ちる	ものがつまる等	やけど	ころぶ	ぶつかる	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
1位	ベッド	包み・袋	ポット・魔法瓶	机・テーブル	人	手動ドア	ハサミ・爪切り	動物等	浴槽
	134人	95人	29人	12人	9人	10人	9人	10人	8人
2位	人	たばこ	味噌汁・スープ	その他の玩具	その他の家具	エレベーター	ナイフ		
	121人	56人	20人	4人	7人	2人	3人		
3位	階段	その他の玩具	お茶・コーヒー類	床・畳	机・テーブル	その他の玩具	耳掻き・綿棒		
	43人	44人	15人	3人	6人	2人	3人		
4位	ソファ	異物	熱湯	ベッド	壁・天井	その他の家具	アルミ缶		
	42人	22人	15人	2人	6人	2人	2人		
5位	ベビーカー	薬剤等	鍋	自動車	ベッド	ベッド	歯ブラシ		
	41人	11人	7人	2人	5人	2人	2人		

※その他の玩具とは、プラスチック製の玩具やフィギュア、シールや積み木など。

※その他の家具とは、棚や箱など。

ウ 0歳の事事故事例

【事例1 ベビーベッドから転落】

親がミルクを作っている間、子どもから目を離していたところ、ベッドから転落した（4か月 中等症）。

【事故防止ポイント】

ベッドやソファ、階段などから「落ちる」事故は、0歳児に多く発生しています。昨日までできなかった寝返りが、今日できるかもしれません。目を離すときはベビーベッドの柵を上げましょう。また、高い所に寝かせないようにしましょう。

階段の上下には、転落防止用の柵等をつけましょう。

【事例2 フィルムを誤って飲み込む】

ペットボトルのラベルをかじっており、その後嘔吐した（9か月 軽症）。

【事故防止ポイント】

子どもが飲み込めそうなものが子どもの届くところないように、日頃から整理整頓をこころがけましょう。早い子では、5か月頃から「物をつかむ」、つかんだら「口に入れる」行動が見られます。乳幼児は、トイレットペーパーの芯（39mm）を通る大きさのものなら、口に入れてしまい飲み込む危険性があります。

【事例3 親が寝てしまい浴槽でおぼれる】

親と入浴し、その後物音がないことを不安に思った家族が浴室を確認したところ、浴槽に水没している子どもと、寝てしまっている親を発見した（5か月 中等症）。

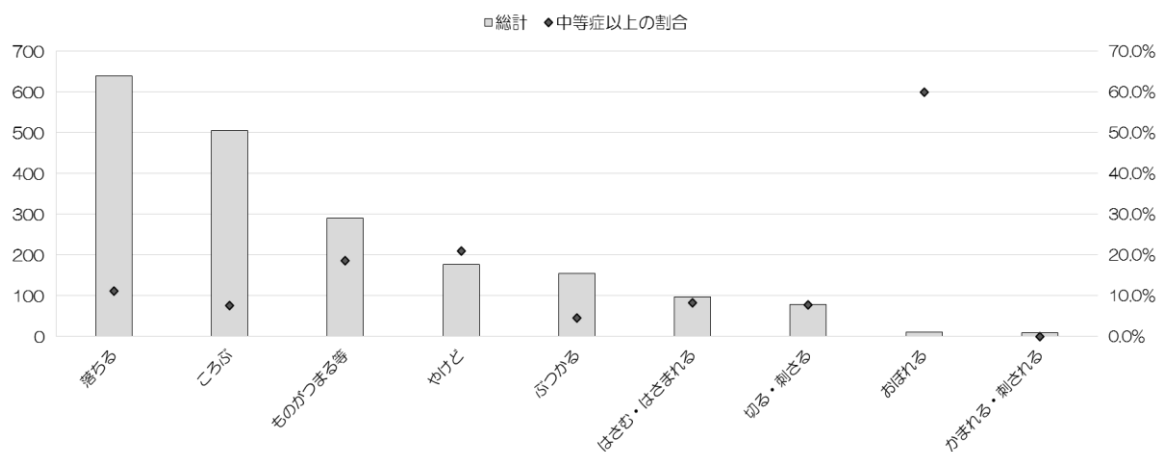
【事故防止ポイント】

おぼれの事故は重症化しやすいため、十分気を付けましょう。また、幼児は水深が浅くてもおぼれる可能性があるため、わずかな時間でも目を離さないようにしましょう。

③ 1歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

1歳になると、歩く、走る、といった行動ができるようになる時期なので、0歳に比べ、「落ちる」や「ころぶ」事故が多くなります。「おぼれる」事故は、中等症以上となる割合が最も高く、「やけど」事故でも2割以上が中等症以上と診断されています（図3-38）。



事故種別	落ちる	ころぶ	ものがつまる等	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	おぼれる	かまれる・刺される
救急搬送人員	640人	505人	290人	176人	155人	97人	78人	10人	9人
中等症以上の割合	11.1%	7.5%	18.6%	21.0%	4.5%	8.2%	7.7%	60.0%	0.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-38 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

1歳では、階段から「落ちる」事故が多く発生しています。また、お茶・コーヒー類による「やけど」事故も多く発生しています（表2）。

表2 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

順位 \ 種別	落ちる	ころぶ	ものがつまる等	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	おぼれる	かまれる・刺される
1位	階段	その他の家具	たばこ	お茶・コーヒー類	その他の家具	手動ドア	歯ブラシ	浴槽	動物等
	142人	48人	39人	34人	19人	35人	20人	9人	9人
2位	椅子	机・テーブル	薬剤等	熱湯	机・テーブル	エレベーター	ナイフ	公園	
	102人	43人	27人	29人	19人	9人	17人	1人	
3位	人	ベッド	野菜・果物	味噌汁・スープ	壁・天井	その他の家具	ハサミ・爪切り		
	53人	31人	24人	29人	14人	5人	11人		
4位	自転車の補助イス	椅子	電池	ポット・魔法瓶	ベッド	自転車	食器類		
	51人	28人	20人	19人	13人	5人	9人		
5位	ベビーカー	階段	その他の玩具	鍋	手動ドア	フェンス・柵・塀	耳掻き・綿棒		
	47人	27人	18人	16人	9人	4人	5人		

※その他の玩具とは、プラスチック製の玩具やフィギュア、シールや積み木など。

※その他の家具とは、棚や箱など。

ウ 1歳の事故事例

【事例1 階段から落ちる】

マンションの踊り場で遊んでいた際に、足を滑らせて階段から転落し受傷した（1歳 重症）。

【事故防止ポイント】

1歳児は0歳児と比べ、活発に動くようになります。普段から目を離さないよう注意しましょう。また、椅子などに座らせる時は、チェアベルト等を活用し、大きな事故にならないように工夫しましょう。

【事例2 薬の誤飲】

自宅のテーブル上に置いてあった親の処方薬を、子どもが誤飲した（1歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

医薬品は、子供の手の届くところに置かないようにしましょう。

医薬品は、薬理作用があるため、保管や管理には細心の注意を払いましょう。

シロップ等、子供が飲みやすいように味付けしてあるものは、冷蔵庫に入れておいても、自ら取り出して飲んでしまうことがあるため、保管・管理には十分注意しましょう。

【事例3 歯ブラシが刺さった事故】

ソファの上に立って歯磨きをしている際に転倒し、口腔内から出血があった（1歳 軽症）。

【事故防止ポイント】

歯ブラシを口に入れたまま、歩いたり走ったりさせないようにしましょう。過去には口腔内に刺さる事例も発生しています。

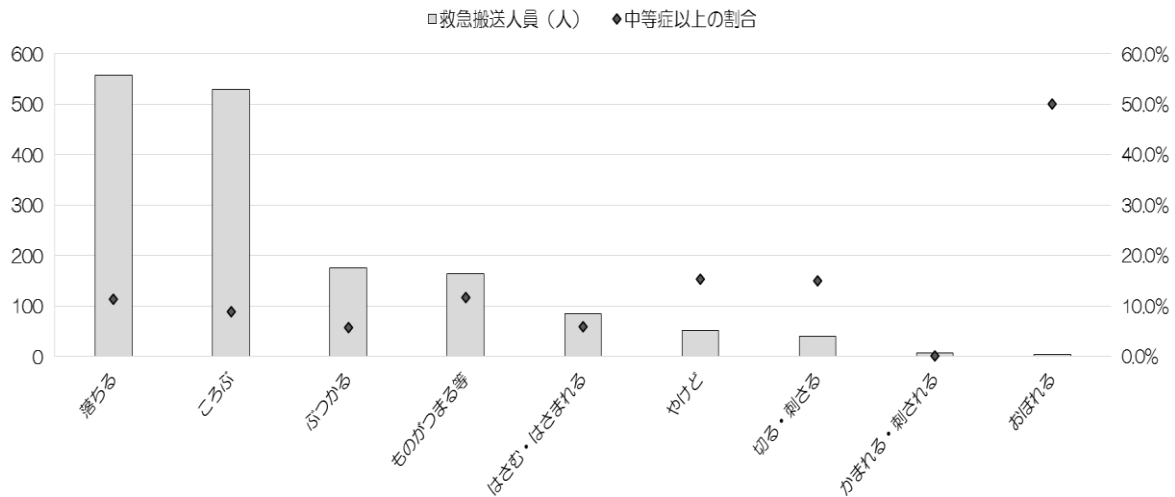
不安定な場所で歯みがきをしていて、転落した事例もあることから、椅子や踏み台等に乗った状態で歯みがきをさせないようにしましょう。

歯みがき中に人や物と接触し、受傷するケースも多くあるため、歯みがき中は保護者が付き添い、周囲にも注意を払いましょう。

④ 2歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

「落ちる」事故、「ころぶ」事故に次いで、「ぶつかる」事故が多く発生しています。「おぼれる」事故では5割が中等症以上と診断されています（図3-39）。



事故種別	落ちる	ころぶ	ぶつかる	ものが つまる等	はさむ・ はさまれる	やけど	切る・ 刺さる	かまれる・ 刺される	おぼれる
救急搬送人員	557人	530人	175人	163人	84人	52人	40人	7人	4人
中等症以上の割合	11.3%	8.9%	5.7%	11.7%	6.0%	15.4%	15.0%	0.0%	50.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-39 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

2歳では、階段から「落ちる」事故が多く発生しています。また、運動機能が発達し、自由に動き回れるようになってくるため、家の中を走り回って、家具等に「ぶつかる」事故も発生しています（表3）。

表3 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	落ちる	ころぶ	ぶつかる	ものが つまる等	はさむ・ はさまれる	やけど	切る・ 刺さる	かまれる・ 刺される	おぼれる
1位	階段	机・テーブル	机・テーブル	その他の玩具	手動ドア	熱湯	ハサミ・爪切り	虫	浴槽
	117人	44人	28人	25人	32人	9人	9人	4人	4人
2位	椅子	その他の家具	その他の家具	魚等の骨	エレベーター	カップ麺	歯ブラシ	動物等	
	62人	35人	26人	14人	8人	8人	5人	3人	
3位	自転車の補助イス	階段	窓・サッシ	アメ玉類	鉄道車両の戸袋	鍋	食器類		
	60人	28人	11人	11人	8人	6人	5人		
4位	人	椅子	柱	薬剤等	その他の家具	味噌汁・スープ	ナイフ		
	45人	28人	11人	10人	5人	6人	4人		
5位	滑り台	ベッド	手動ドア	ビー玉類	自転車	お茶・コーヒー類	耳掻き・綿棒		
	39人	16人	10人	9人	5人	4人	3人		

※その他の玩具とは、プラスチック製の玩具やフィギュア、シールや積み木など。

※その他の家具とは、棚や箱など。

ウ 2歳の事事故事例

【事例1 落ちる事故】

自宅の庭で泣き声がするので親が見に行くと、直前まで2階のベランダで遊んでいた子どもが泣きながら立っていた（2歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

ベランダや窓の他に、椅子などの家具からの墜落事故も発生しています。高所からの墜落は重症化しやすいため十分注意しましょう。

【事例2 ボタン電池の誤飲】

腕時計用のボタン電池を交換しようとしたところ、目を離した際に腕時計を口にくわえており、ボタン電池がなくなっていた（2歳 軽症）。

【事故防止ポイント】

子どもが飲み込めそうなものは、子どもの手の届くところに置かないようにしましょう。

ボタン電池は放電能力が高いため、非常に短時間で消化管壁に潰瘍を作ります。

【事例3 はさまれる事故】

自宅内の扉の蝶番側の隙間に、子どもの指が入っていることに気付かず親が扉を閉めてしまい指が挟まり受傷した（2歳 軽症）。

【事故防止ポイント】

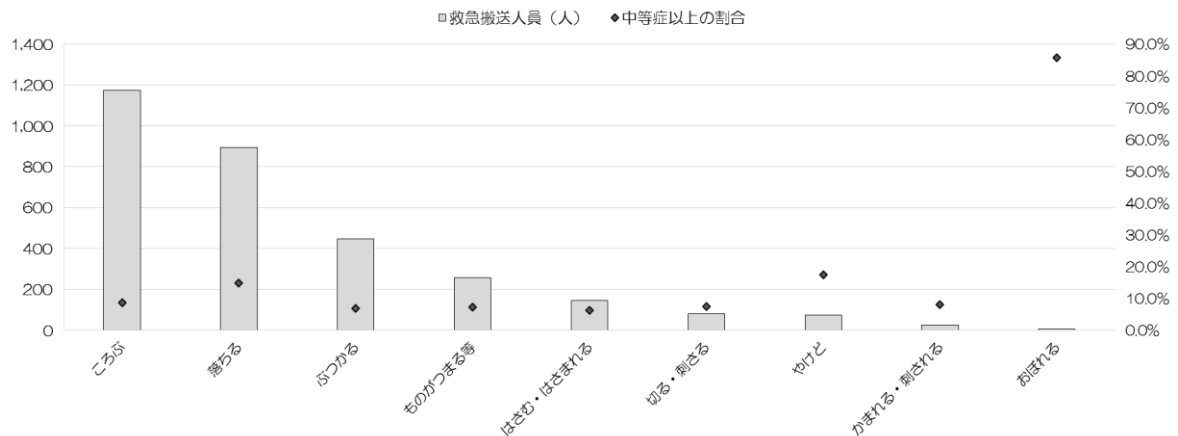
子供の「はさまれ」の原因で一番多いのは「手動ドア」です。子供の手や足は大人より小さく、狭い隙間でも入ってしまいます。指の切断に至ることもあるのでドアの開閉時は、注意しましょう。

ドアの蝶番側は、指はさみを防止するグッズなどでカバーすることも事故防止に効果的です。

⑤ 3歳～5歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

3歳から5歳では、「ころぶ」事故が最も多くなっています。「おぼれる」事故は8割以上が中等症以上となっており、「落ちる」事故と「やけど」の事故は、1割以上が中等症以上と診断されています（図3－40）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	1,175人	894人	446人	259人	145人	81人	74人	25人	7人
中等症以上の割合	8.8%	14.9%	7.0%	7.3%	6.2%	7.4%	17.6%	8.0%	85.7%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3－40 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

3歳から5歳では、階段から「落ちる」事故が多く発生しています。また、机・テーブルで「ぶつかる」事故も多く発生しています（表4）。

表4 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
1位	階段	階段	机・テーブル	その他の玩具	手動ドア	ナイフ	味噌汁・スープ	虫	浴槽
	84人	147人	53人	45人	58人	16人	11人	16人	6人
2位	机・テーブル	自転車の補助イス	その他の家具	魚等の骨	自転車	ハサミ・爪切り	カップ麺	動物等	プール
	76人	76人	36人	28人	17人	11人	10人	9人	1人
3位	椅子	椅子	人	ビー玉類	鉄道車両の戸袋	歯ブラシ	熱湯		
	67人	68人	35人	25人	12人	6人	10人		
4位	その他の家具	ソファ	手動ドア	アメ玉類	エレベーター	ガラス片	ポット・魔法瓶		
	63人	59人	24人	23人	6人	4人	7人		
5位	段差	人	壁・天井	硬貨	その他の家具	食器類	お茶・コーヒー類		
	44人	56人	23人	13人	6人	4人	6人		

※その他の玩具とは、プラスチック製の玩具やフィギュア、シールや積み木など。

※その他の家具とは、棚や箱など。

ウ 3歳～5歳の事故事例

【事例1 ころぶ事故】

プールサイドを走っていた際に滑って転倒し、後頭部を受傷した（3歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

3歳になると運動能力も高くなり行動範囲が広がっています。危険や安全の判断がまだ十分にできていませんので、危険な行動は繰り返し教えてあげましょう。

【事例2 遊具からの転落】

公園の滑り台から、約2m下の地面に落ちて受傷した（3歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

墜落事故は重大事故につながる可能性が高い事故の一つです。

遊具からの転落事故の他、窓やベランダに置いてあったイスや室外機にのぼり、誤って墜落する事故も発生しています。

ベランダや窓の近くには子供がのぼれるものを置かないようにしましょう。

【事例3 やけどの事故】

机の上に置いてあったコーヒーの入ったマグカップを倒してしまい、体にコーヒーがかかり受傷した（4歳 重症）。

【事故防止ポイント】

やけどの恐れのあるものは、子供の手の届くところに置かないようにしましょう。

テーブル上に置かれた熱いものが入った容器を乳幼児が引き寄せ、やけどを負う事故が多く発生しています。テーブルの隅など、乳幼児の手の届きやすいところに熱いものは絶対に置かないようにしましょう。

(2) 6歳～12歳（小学生）の事故

ア 年別搬送人員

小学生の年代では、令和元年中に4,307人が救急搬送されています（図 3-41）。

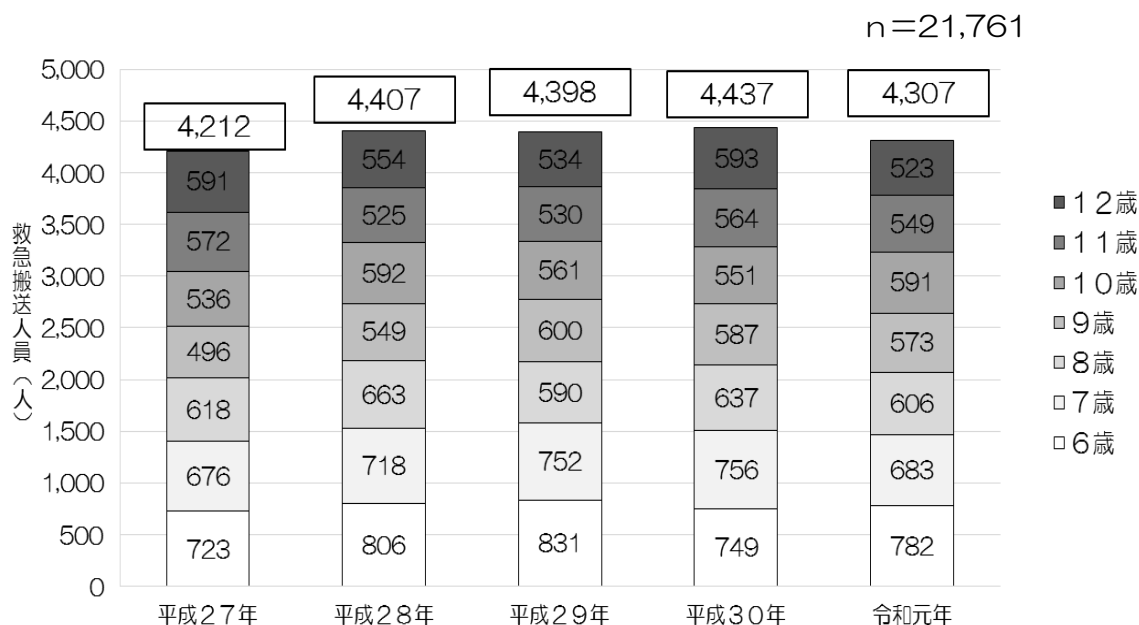


図 3-41 年別救急搬送人員（6歳～12歳）

イ 月別搬送人員

月別では、5月から7月に多く搬送されています（図 3-42）。

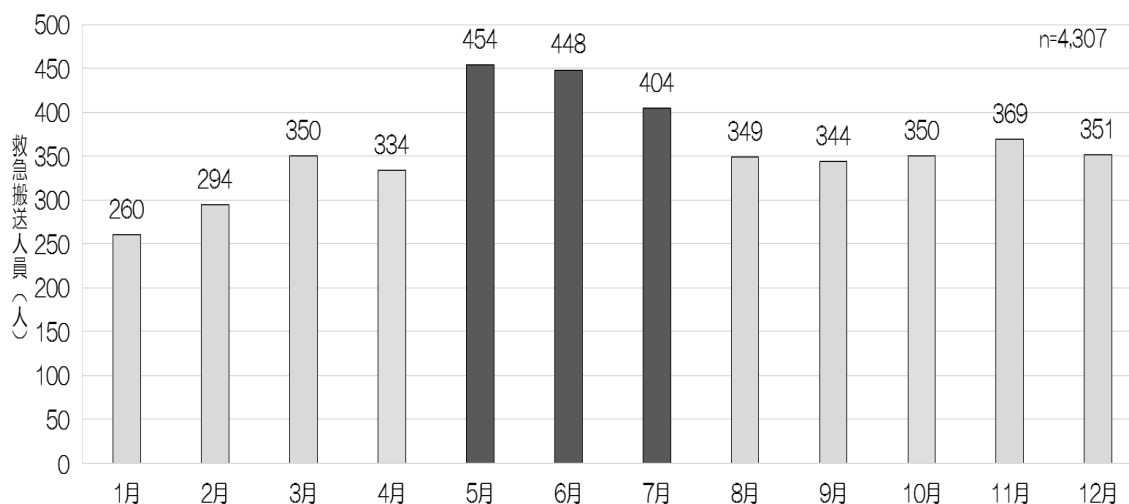


図 3-42 月別救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所の他に学校・児童施設等が多くなっています。また、公園・遊園地・運動場等での事故も多く発生しています（図 3-43）。

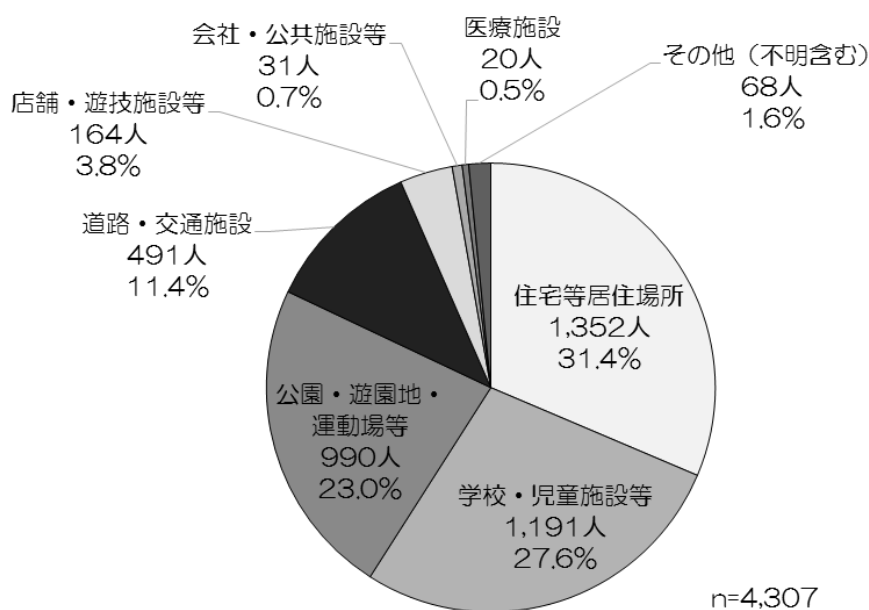
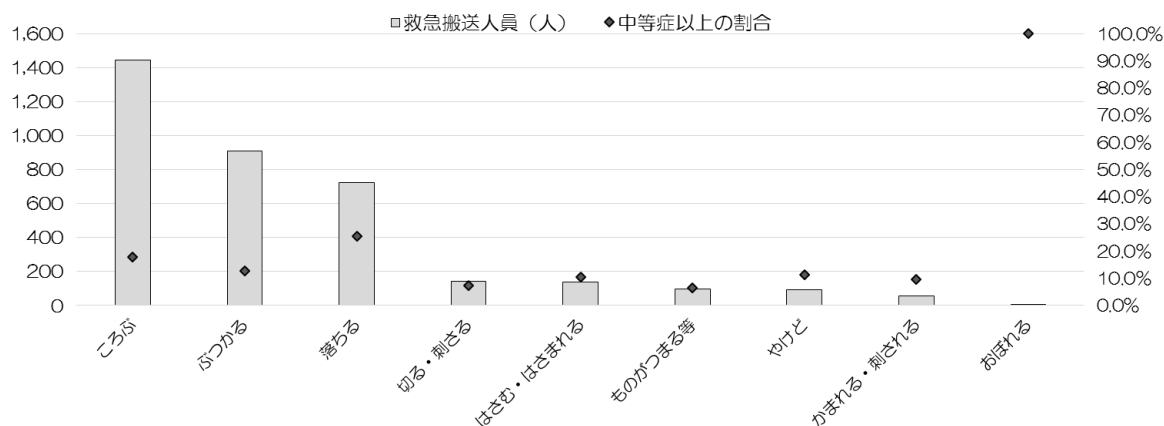


図 3-43 発生場所別救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

小学生は「ころぶ」事故の次に、「ぶつかる」事故が多く発生しています。「おぼれる」事故ではすべてが中等症以上となっています。また、「落ちる」事故は2割以上が中等症以上となっています（図 3-44）。



事故種別	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	ものがつまる等	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	1,443人	906人	720人	140人	136人	96人	89人	53人	5人
中等症以上の割合	17.8%	12.7%	25.4%	7.1%	10.3%	6.3%	11.2%	9.4%	100.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」なものを除く

図 3-44 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

階段で「ころぶ」事故が多く発生しています。子ども同士で「ぶつかる」事故も多く発生しています（表5）。

表5 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	ぶつかる	落ちる	はさむ・ はさまれる	切る・ 刺さる	ものが つまる等	やけど	かまれる・ 刺さる	おぼれる
1位	階段	人	階段	自転車	ナイフ	魚等の骨	味噌汁・スープ	虫	浴槽
	82人	168人	81人	36人	33人	13人	25人	31人	3人
2位	スケートボード	ボール	雲梯	手動ドア	手動ドア	アメ玉類	鍋	動物等	河川
	39人	72人	68人	30人	12人	12人	11人	22人	1人
3位	その他の家具	柱	その他の遊具	植物	ガラス片	ビー玉類	カップ麺		プール
	38人	37人	62人	7人	11人	6人	10人		1人
4位	キックボード	机・テーブル	鉄棒	鉄道車両の戸袋	ミシン（ミシン針含む）	洗剤等	ポット・魔法瓶		
	37人	33人	47人	7人	8人	6人	8人		
5位	自転車	壁・天井	滑り台	自動車のドア	食器類	その他の玩具	熱湯		
	34人	31人	44人	6人	7人	5人	8人		

※その他の玩具とは、プラスチック製の玩具やフィギュア、シールや積み木など。

※その他の家具とは、棚や箱など。

※その他の遊具とは、木製遊具や吊橋遊具、トンネル遊具など。

カ 6歳～12歳の事故事例

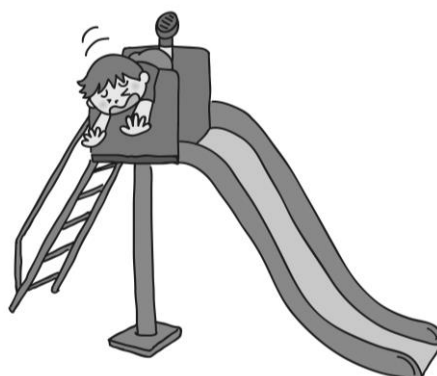
【事例1 高所から落ちる】

友達と遊んでいて、ガラス屋根の上を歩いていたところ、ガラスが割れ約3m下のコンクリートの地面に墜落し受傷した（11歳 重症）。

【事故防止ポイント】

高所からの墜落は、生命に危険を及ぼす重大な事故となることから、保護者等は、危険性を子どもに教え、理解させましょう。

小学生の年代は、運動能力の発達に加え、身長、体重、運動量、俊敏性、冒険心の増大が事故につながっていると考えられます。危険が予測される行動も多く見られることから、安全教育による事故防止も不可欠です。



(3) 13歳～18歳（中学生・高校生）の事故

ア 年別搬送人員

令和元年中は、3,550人が救急搬送されています（図3-45）。

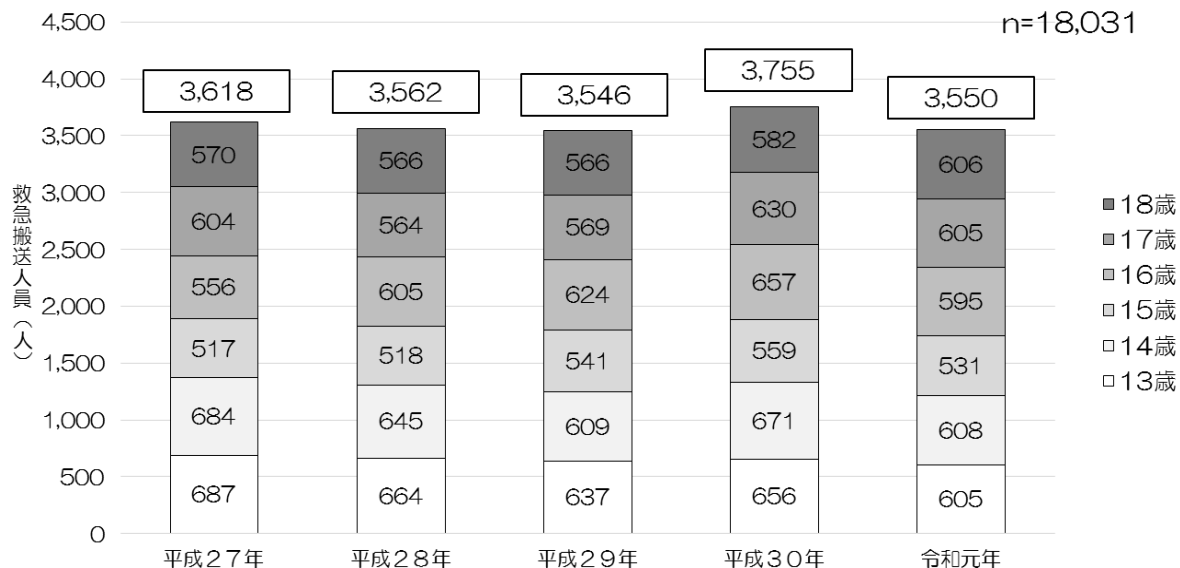


図3-45 年別救急搬送人員（13歳～18歳）

イ 月別搬送人員

月別にみると、8月が最も多く、次いで5月に多く搬送されています（図3-46）。

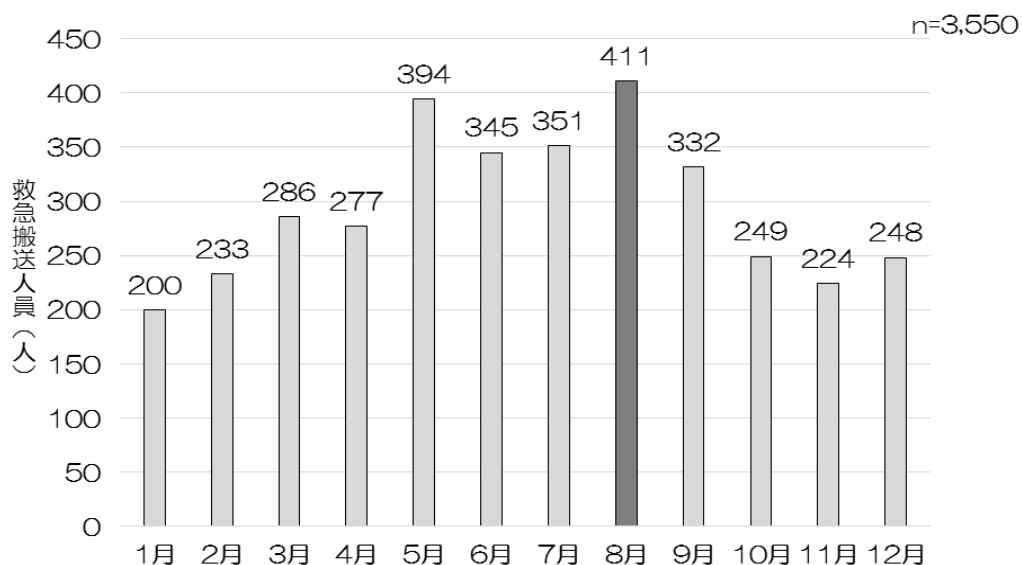


図3-46 月別救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

学校・児童施設等が最も多く、次いで公園・遊園地・運動場等が多くなっています（図 3-47）。

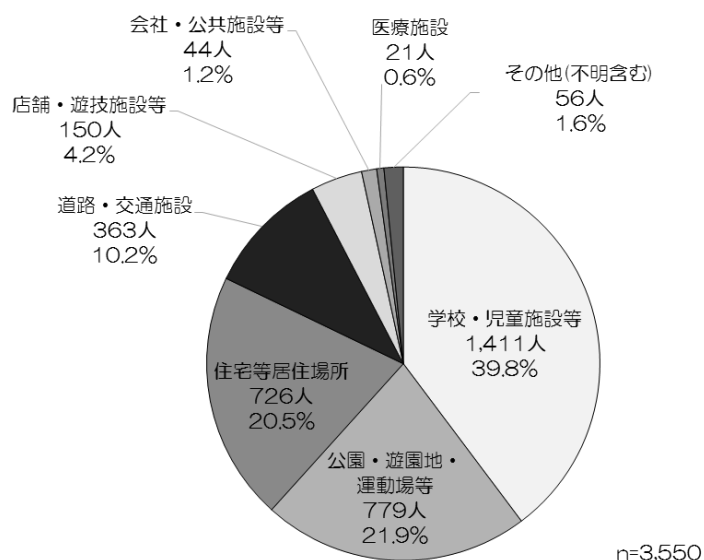
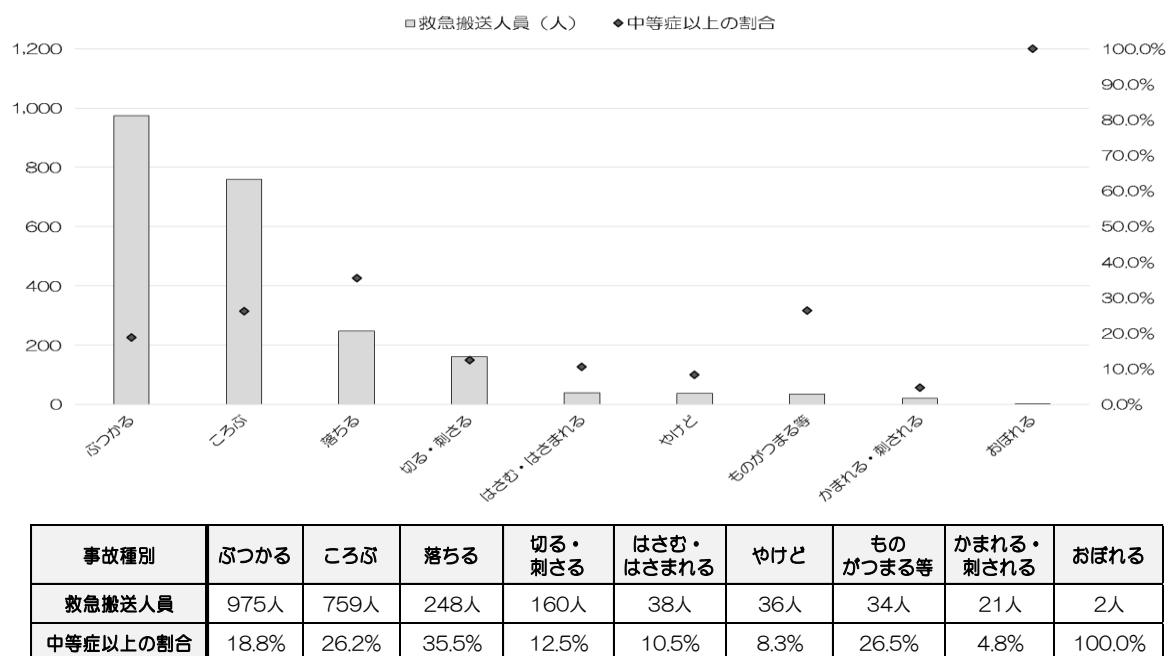


図 3-47 発生場所別救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

13歳から18歳では、事故種別ごとにみると、「ぶつかる」事故が最も多くなっています。また、「おぼれる」事故の全てで中等症以上となっています（図 3-48）。



※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図 3-48 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

この年代では、人と「ぶつかる」事故が多く発生しています。また、スポーツでボールにぶつかる等の事故が多くなっています（表6）。

表6 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ぶつかる	ころぶ	落ちる	切る・ 刺さる	はさむ・ はさまれる	ものが つまる等	やけど	かまれる・ 刺される	おぼれる
1位	人	階段	階段	ナイフ	バーベル	異物	熱湯	虫	浴槽
	311人	65人	89人	41人	2人	3人	8人	13人	1人
2位	ボール	自転車	ホーム	手動ドア	机・テーブル	魚等の骨	鍋	動物等	河川
	222人	12人	12人	23人	2人	3人	4人	8人	1人
3位	手動ドア	スケートボード	鉄棒	食器類	自転車	食物	味噌汁・スープ		
	34人	11人	6人	17人	2人	3人	4人		
4位	壁・天井	床・畳	ベランダ	ガラス片	ゴールポスト	接着剤	ポット・魔法瓶		
	22人	9人	5人	15人	1人	2人	3人		
5位	バット	エスカレーター	ベッド	窓・サッシ	携帯電話	肉	ヤカン		
	16人	9人	5人	11人	1人	2人	3人		

カ 13歳～18歳の事事故事例

【事例1 人とぶつかる】

サッカーの試合中に、対戦相手と接触して転倒し受傷した。（10代 中等症）。

【事例2 運動中に落ちる】

ボルダリングジムにて高さ4mの壁体から、安全マット上に墜落した際に足首を捻り受傷した（10代 中等症）。

【事故防止ポイント】

中学生、高校生の年代では、運動中の事故が多く発生しています。

ウォーミングアップやストレッチは入念に行い、けがの予防に努めましょう。

指導者や保護者等は、普段の練習や競技の前には事故防止の注意喚起を行うとともに、不測の事態に備え、応急手当、AED（自動体外式除細動器）の使用方法を身につけましょう。

(4) 19歳～64歳の事故

ア 年別搬送人員

19歳から64歳まででは、令和元年中に43,730人が救急搬送されています（図3-49）。

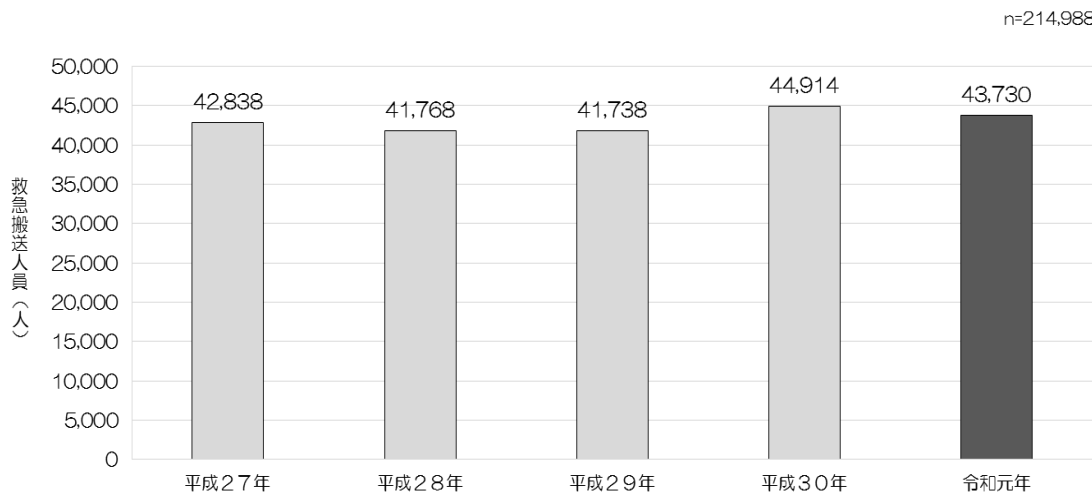


図3-49 年別の救急搬送人員

イ 月別搬送人員

令和元年を月別にみると、8月に最も多く搬送され、次いで12月が多くなっています（図3-50）。

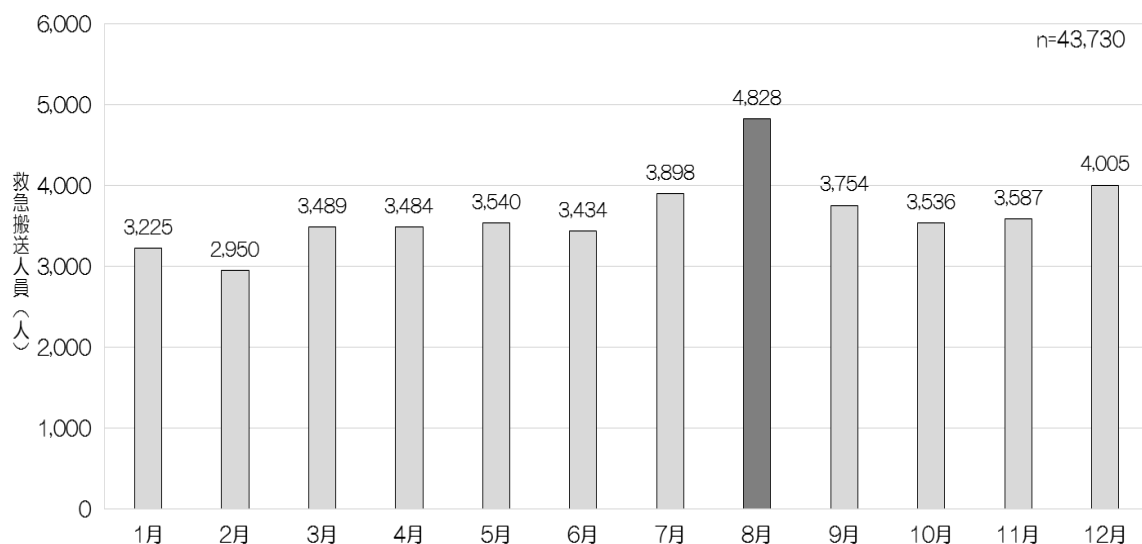


図3-50 月別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所、道路・交通施設での事故が多く発生しています（図 3-51）。

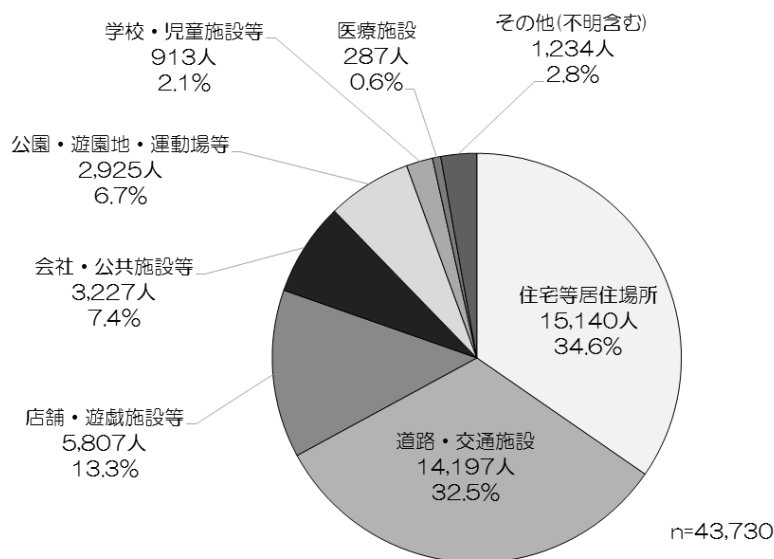
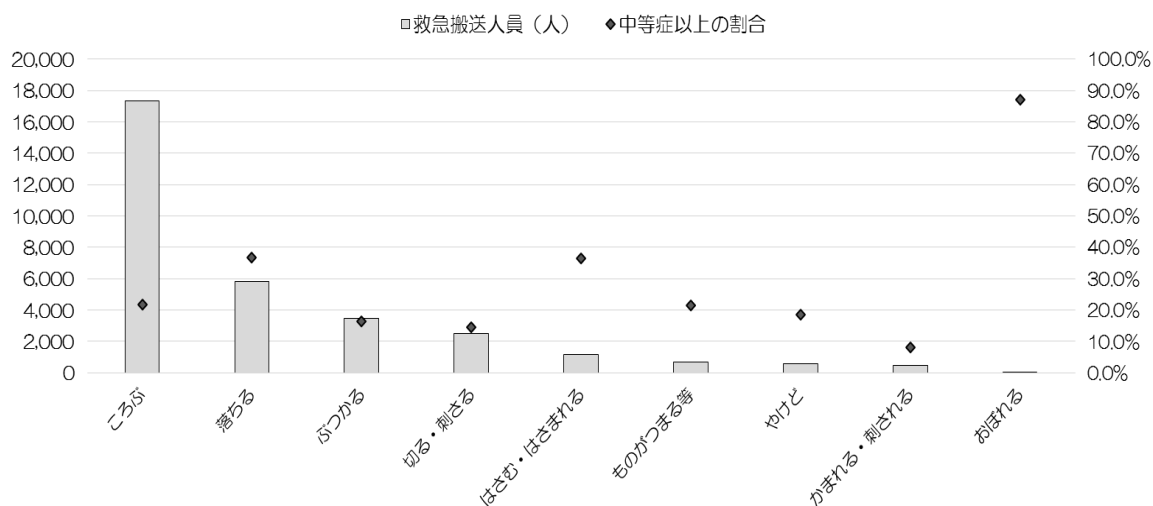


図 3-51 発生場所別救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

19歳から64歳では、「ころぶ」事故が最も多く発生しています。また、「おぼれる」事故は中等症以上の割合が最も高く、「落ちる」事故、「落ちる」事故、「はさむ・はさまれる」事故の3割が中等症以上となっています（図 3-52）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	ものがつまる等	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	17,322人	5,805人	3,445人	2,515人	1,149人	705人	561人	446人	62人
中等症以上の割合	21.7%	36.6%	16.5%	14.4%	36.5%	21.4%	18.5%	8.1%	87.1%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図 3-52 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

「ころぶ」事故、「落ちる」事故ともに「階段」での事故が最も多く発生しています（表7）。

表7 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	ものがつまる等	やけど	かまれる・刺さる	おぼれる
1位	階段	階段	人	ナイフ	手動ドア	洗剤等	鍋	動物等	浴槽
	1,553人	2,911人	510人	936人	107人	78人	86人	235人	36人
2位	段差	脚立・踏み台・足場	ボール	食器類	自動車	肉	天ぷら油	虫	河川
	598人	381人	211人	313人	68人	55人	72人	205人	5人
3位	床・畳	ホーム	壁・天井	ガラス片	その他の機械	食物	熱湯	魚介類	公園
	438人	235人	151人	132人	57人	47人	69人	1人	1人
4位	自転車	椅子	その他の家具	電動のこぎり	フォークリフト	包み・袋	味噌汁・スープ		
	382人	198人	138人	107人	52人	40人	56人		
5位	エスカレーター	軌道敷	手動ドア	スライサー	建材	魚等の骨	ポット・魔法瓶		
	269人	190人	127人	91人	44人	37人	41人		

カ 19歳～64歳の事故事例

【事例1 ホームから落ちる】

スマートフォンを見ながら駅のホーム上を歩行していた際に、軌道敷に転落し腰部を受傷した（20代 中等症）。

【事故防止ポイント】

飲酒後や歩きスマホにより、駅のホームから転落する事故が多く発生しています。ホームの線路側を歩かないようにし転落防止をしましょう。

【事例2 機械に指をはさむ】

機械の動作確認をしていたところ、チェーン部分に誤って指を挟んでしまい受傷した（40代 中等症）。

【事故防止ポイント】

機械によるはさむ・はさまれる事故は重症化しやすいことを認識しましょう。
機械を稼働させたまま詰まりを除去しようとして受傷する事故も発生しています。
機械の点検、掃除、修理をする場合には、機械のスイッチを切断し、コンセントを抜くなど、誤って電源が入ることがないことを確認してから作業しましょう。

(5) 65歳以上（高齢者）の事故

① 65歳以上（高齢者）

ア 年別搬送人員

高齢者の事故は年々増加しています。令和元年中の救急搬送人員は83,905人で平成27年と比較すると15,783人増加しています（図3-53）。

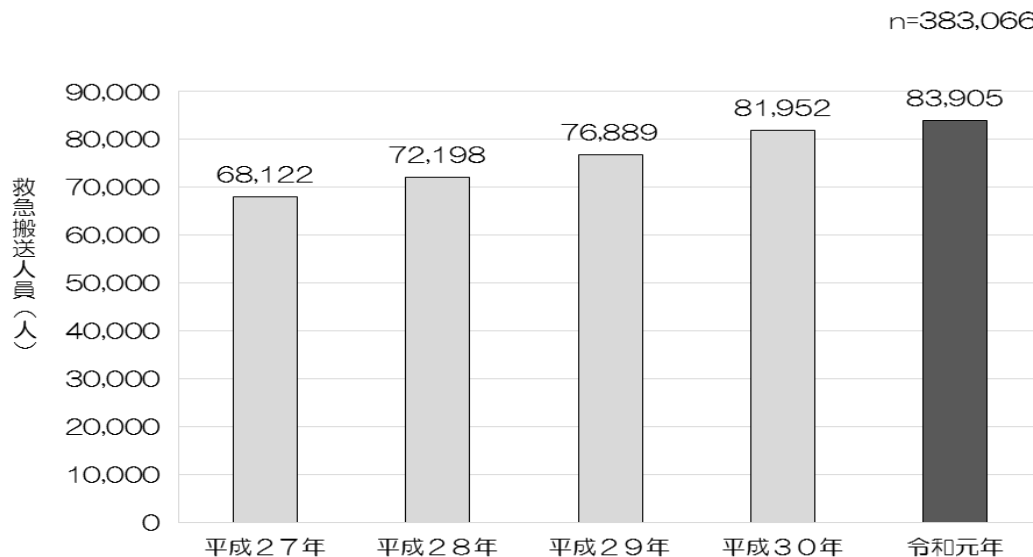


図3-53 年別の救急搬送人員

イ 初診時程度別搬送人員

高齢者は、入院を必要とする中等症以上となる割合が高く、約4割となっています（図3-54）。

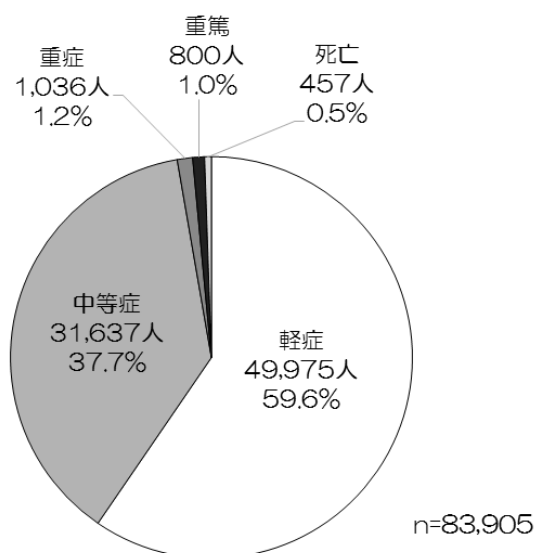


図3-54 初診時程度別救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所での事故が6割を超え、道路・交通施設での事故と合わせると約9割を占めています（図3-55）。

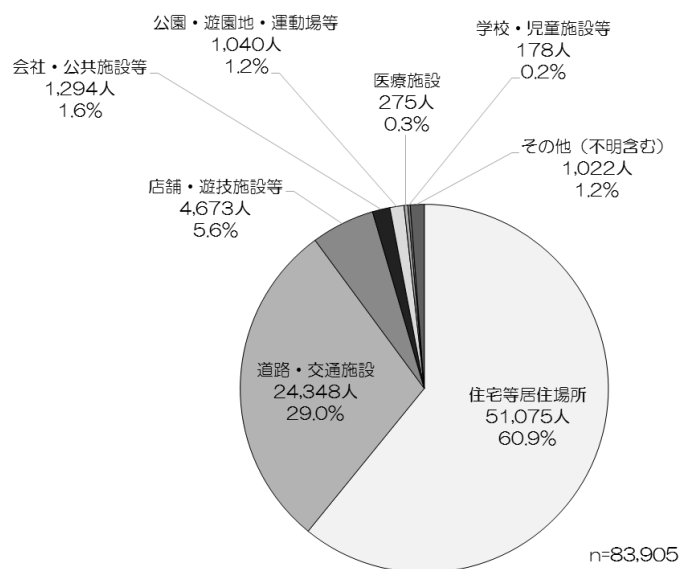
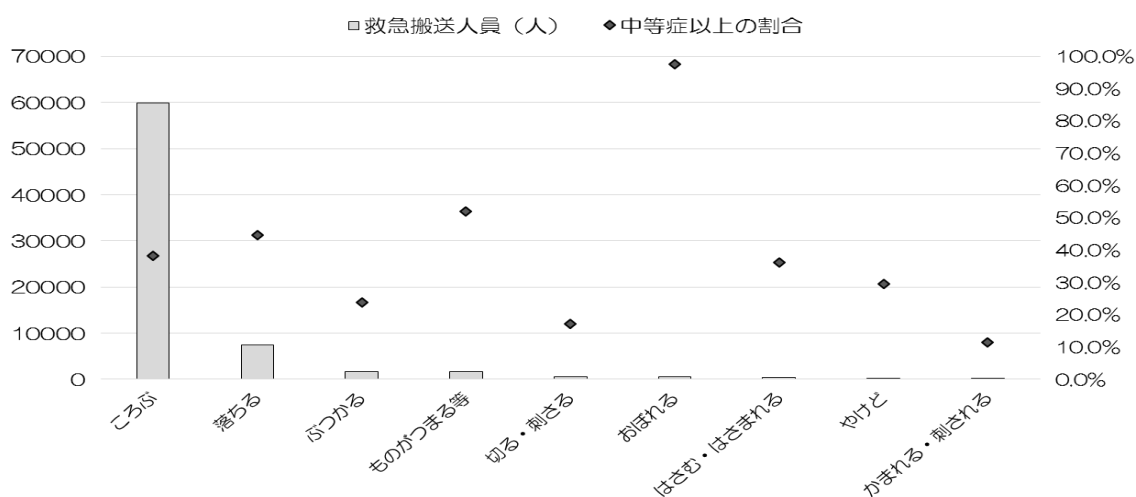


図3-55 発生場所別救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

高齢者の「おぼれる」事故は、97.5%が中等症以上と最も高く、「ころぶ」事故、「落ちる」事故、「ものがつまる等」の事故、「はさむ・はさまれる」事故は3割を超える人が中等症以上となっており、高齢者は他の年代と比べ、重症化しやすくなっています（図3-56）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	切る・刺さる	おぼれる	はさむ・はさまれる	やけど	かまれる・刺される
救急搬送人員	59,816人	7,380人	1,717人	1,672人	614人	520人	376人	265人	261人
中等症以上の割合	38.2%	44.7%	23.7%	52.0%	17.1%	97.5%	36.2%	29.4%	11.5%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-56 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

「ころぶ」事故は畳・床や段差、階段で多く発生しています。また、「落ちる」事故は、階段、ベッド、椅子が多くなっており、「おぼれる」事故は、そのほとんどが浴槽で発生しています（表8）。

表8 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものが つまる等	切る・ 刺さる	おぼれる	はさむ・ はさまれる	やけど	かまれる・ 刺さる
1位	畳・床	階段	その他の家具	食物	ナイフ	浴槽	手動ドア	鍋	虫
	2,499人	2,895人	103人	403人	189人	491人	42人	39人	135人
2位	段差	ベッド	人	包み・袋	電気のこぎり	河川	ベッド	熱湯	動物等
	2,447人	1,117人	100人	103人	70人	3人	24人	37人	126人
3位	階段	椅子	壁・天井	餅	ハサミ・爪切り	プール	自動車のドア	ヤカン	
	1,971人	549人	83人	78人	35人	2人	17人	34人	
4位	自転車	脚立・踏み台・足場	柱	肉	食器類		プレス機	ポット・魔法瓶	
	851人	385人	75人	77人	28人		15人	21人	
5位	椅子	エスカレーター	手動ドア	おかゆ類	入れ歯によるもの		その他の機械	天ぷら油	
	788人	141人	72人	76人	27人		15人	15人	

※その他の家具とは、棚や箱など。

カ 65歳以上（高齢者）の事故事例

【事例1 餅を詰まらせる】

自宅で団子を食べていた際に、喉に詰まらせ意識がなくなった（80代 重症）。

【事故防止ポイント】

高齢者の「ものがつまる等」の事故は5割以上が中等症以上と診断されています。

食べ物は小さく切ってよく噛んで食べましょう。



【事例2 包みの誤飲】

薬を服用する際に、誤って薬のパッケージごと飲んでしまった（80代 中等症）。

【事故防止ポイント】

高齢者が薬を服用する際は、パッケージを飲み込まないように、適時様子を見るなど注意を払いましょう。

【事例3 ころぶ事故】

公園内を歩行中に、地面の段差につまづき転倒し大腿部を受傷した（70代 中等症）。

【事故防止ポイント】

高齢者のころぶ事故の約4割が中等症以上と診断されています。

自宅内では整理整頓を心がけ、家具や敷物による転倒を防止しましょう。

【事例4 脚立から落ちる】

脚立に登って自宅の庭の立木を剪定中、誤ってバランスを崩して約2mの高さから墜落し受傷した（60代 中等症）。

【事故防止ポイント】

脚立や踏み台に上がって作業や清掃をしていて転落する事故が多く発生しています。

- 脚立の天板の上、脚立・はしごの上方に乗って作業しないようにしましょう。
- 安定した足場を選び、バランスを崩さないようにしましょう。
- 使用時は補助者に支えてもらいましょう。
- 年齢や個々の体力を勘案し、無理な作業は控えましょう。

事業者の場合、法令では、2m以上の高所作業については、墜落等の危険を防止する措置（墜落制止用器具等の使用）をとることが事業者には義務付けられ、労働者も指示に従う義務があります。



② 65歳～74歳（前期高齢者）と75歳以上（後期高齢者）

ア 年別搬送人員

前期高齢者と後期高齢者の救急搬送人員は年々増加しています。特に後期高齢者の増加ペースは前期高齢者に比べて早く、毎年2千人から4千人のペースで増加しています（図3-57、図3-58）。

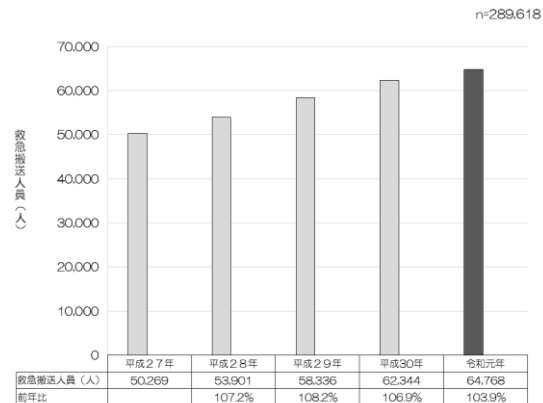
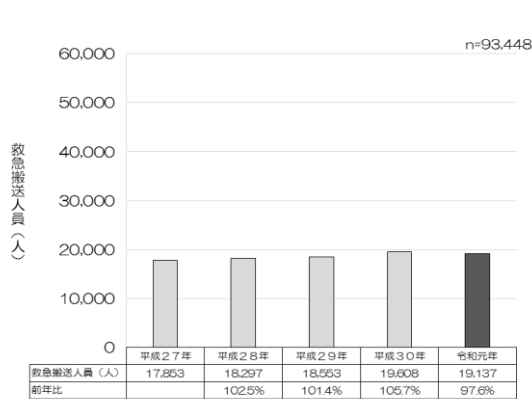


図3-57 年別の救急搬送人員（前期高齢者）

図3-58 年別の救急搬送人員（後期高齢者）

イ 初診時程度別搬送人員

初診時程度別にみると、前期高齢者では中等症以上の割合が約3割ですが、後期高齢者になると、さらに増加して4割以上を占めています（図3-59、図3-60）。

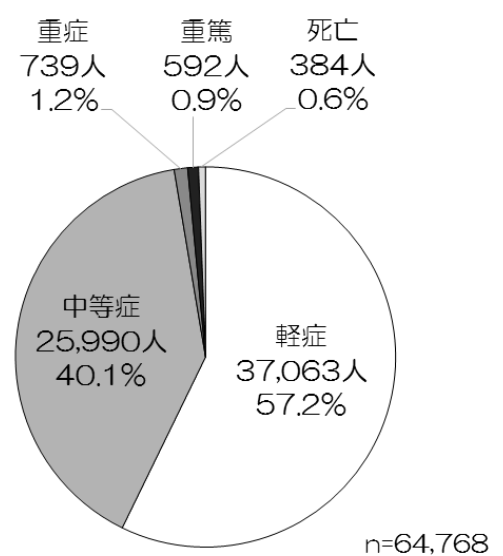
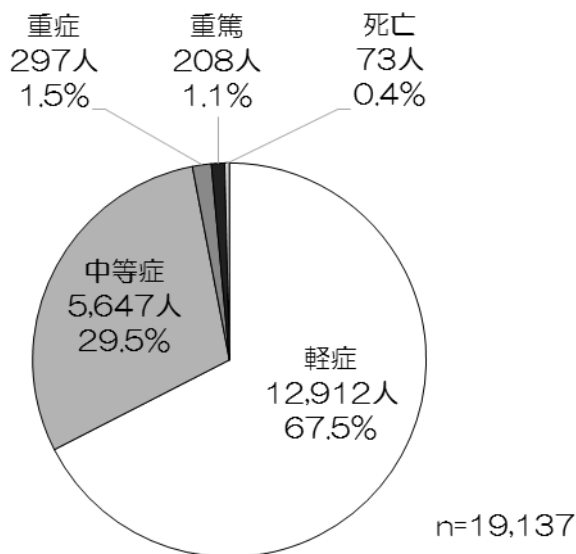


図3-59 初診時程度別（前期高齢者）

図3-60 初診時程度別（後期高齢者）

ウ 発生場所別搬送人員

前期高齢者では住宅等居住場所での事故が最も多く43.0%となっています。次いで多いのが道路・交通施設で39.5%となっています。一方で後期高齢者になると、住宅等居住場所での割合が66.2%に増加しています（図3-61、図3-62）。

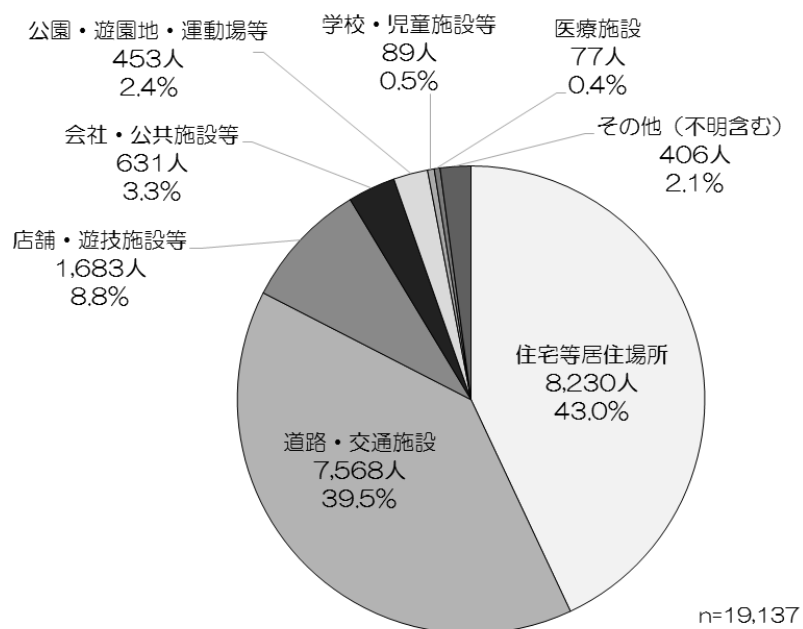


図3-61 発生場所別救急搬送人員（前期高齢者）

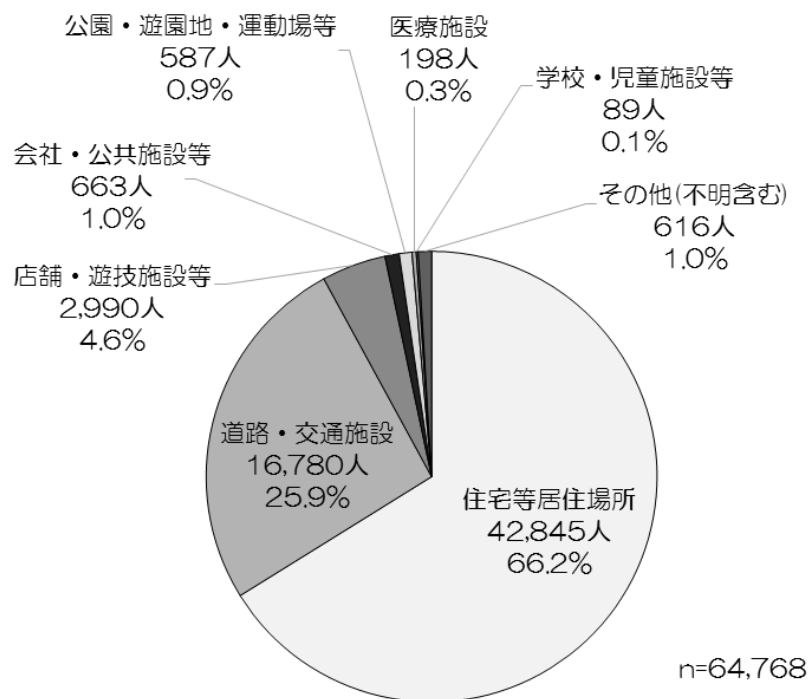
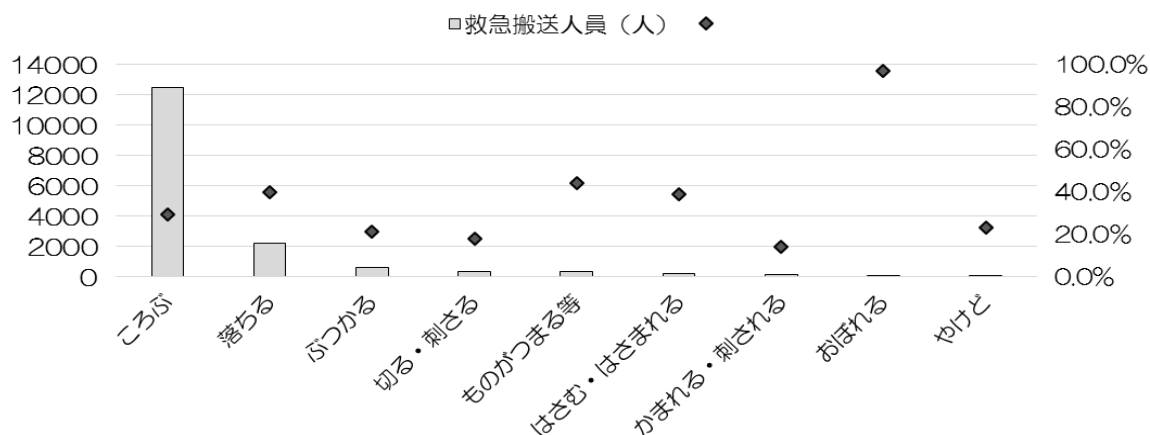


図3-62 発生場所別救急搬送人員（後期高齢者）

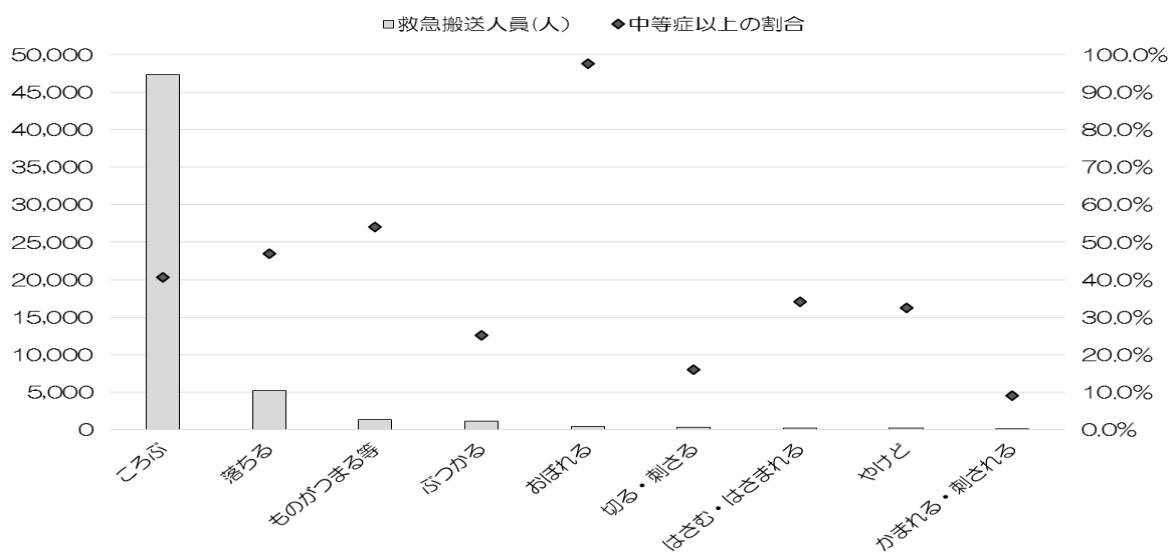
エ 事故種別ごとの搬送人員

「ころぶ」、「落ちる」、「ものがつまる等」、「ぶつかる」、「おぼれる」、「やけど」の事故では前期高齢者に比べて後期高齢者の方が中等症以上の割合が多く、重症化しやすくなっています（図3-63、図3-64）。



※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-63 事故種別ごとの救急搬送人員（前期高齢者）



※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-64 事故種別ごとの救急搬送人員（後期高齢者）